

令和 4 年度

地方独立行政法人福岡市立病院機構に
係る業務実績に関する評価結果報告

福 岡 市

報告第35号

地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る業務実績に関する評価結果報告

地方独立行政法人法第28条第5項の規定により、地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る令和4年度の業務の実績に関する評価結果について報告する。

令和5年9月1日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

目 次

は じ め に	1
第 1 項 全体評価	2
第 2 項 項目別評価	4
（１）大項目評価	
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	4
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	8
（２）小項目評価	
1 福岡市立病院機構の概要	13
2 全体的な状況	15
3 項目別の状況	22
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成す るためとるべき措置	
1 医療サービス	22
2 患者サービス	50
3 医療の質の向上	64
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	80
2 事務部門の機能強化	82
3 働きがいのある職場環境づくり	84
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	88
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 持続可能な経営基盤の確立	90
2 収支改善	96
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	112
2 福岡市民病院における経営改善の推進	116
第 5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	120
第 6 短期借入金の限度額	123
第 7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	123
第 8 剰余金の使途	123
第 9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運 営に関する事項	124
参 考 資 料	125

は じ め に

福岡市は、地方独立行政法人法第28条第1項の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の令和4年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会において、評価に関する意見を聴取し、平成30年6月22日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委 員 長	松 浦 弘	福岡市医師会 副会長
副委員長	福 田 治 久	九州大学大学院医学研究院 准教授
委 員	藤 也 寸 志	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 院長
	大 和 日 美 子	福岡県看護協会 会長
	行 正 晴 實	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及び判断理由

〈評価結果〉

第4期中期目標期間の2年目である令和4年度の業務実績に関する評価については、小項目評価の結果を踏まえ、第1の大項目評価は「評価 A」、第2から第4までの大項目評価は「評価B」となる。

この大項目評価の結果を踏まえ、また、両病院ともに、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の感染拡大に対して、市立病院としての役割を果たしながら、病院機能を可能な限り維持しつつ、医療水準の更なる向上を目指し、医療機能の強化や経営の効率化等に取り組んでいることなどから、令和4年度の業務実績は、「中期計画の実現に向けて計画どおり進んでいる」と評価する。

〈判断理由〉

福岡市立病院機構は、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となり、経営管理の徹底を図っている。

福岡市立こども病院においては、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、小児のコロナ患者の受入れに積極的に取り組むとともに、これまで培ってきた小児医療及び周産期医療の更なる充実を図るなど適切に対応している。

福岡市民病院においても、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、引き続き福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たしつつ、4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病）への対応を中心に高度専門医療及び高度救急医療の更なる充実を図っている。

経営収支面では、コロナ禍の影響等による厳しい経営環境の中、両病院ともに高度医療の提供に着実に取り組むとともに、価格交渉の徹底等による費用削減にも取り組んでおり、また、コロナ対策に関する国や県からの補助金の交付などもあり、市立病院機構全体で16億1,400万円余の当期純利益を確保している。

全体評価にあたって考慮した内容

〈特筆すべき取組〉

《福岡市立こども病院》

- ・ 小児のコロナ患者を積極的に受け入れるなど、市立病院としての役割を果たした。
- ・ 臨床研究や治験業務に積極的に取り組むなど、小児・周産期医療の発展に寄与する取組を行った。
- ・ 循環器集中治療科やこどもアレルギーセンターを新設するなど、診療機能の充実に努めた。

《福岡市民病院》

- ・ コロナへの対応について、令和3年度に引き続き中等症以上の患者を中心に積極的に受け入れ、また、感染症対策としてICIC（感染対策情報発信センター）による情報提供や、関係機関と合同で感染対策訓練を行うなど、市立病院としての役割を果たした。
- ・ 脳卒中相談窓口の開設や、救急受入体制の強化など、診療機能の充実に努めた。

《両病院》

- ・ 地域の医療機関との連携強化に努めた。
- ・ コロナの診療に積極的に取り組む中、コロナ以外の診療についても、医療資源の柔軟な活用等により、市立病院に求められる医療を途切れさせないように努めた。

評価にあたっての意見、指摘等

- ・ コロナの影響下で、市立2病院がこどもの医療や感染症医療等に大きな貢献をしてきたことが改めて確認でき、積極的に評価したい。
- ・ 令和4年度もコロナの影響があり、両病院が積極的にその対応に取り組んできたことは理解できるが、そのことによって目標未達成の全てがやむを得ないこととなるわけではなく、その原因を精緻に探る必要がある。
- ・ コロナの影響等については見込みが困難な面もあるが、極力、実状を踏まえた適正な目標設定を行うよう努めてもらいたい。
- ・ 評価にあたっては、客観的データ、特にアウトカムの指標が重要であり、病院機構も積極的に活用してもらいたい。
- ・ 今後の経営においては、アフターコロナの状況を踏まえた対応が重要。

第2項 項目別評価

(1) 大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 A (計画以上に進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善すべき事項がある (特に認める)
【 120 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点 × 100) ※小数点以下切捨て				
両病院ともに、高度専門医療等における診療機能の充実を図り、地域医療への貢献と医療連携を積極的に進めるとともに、感染症等への対応に積極的に取り組んだ。多数の項目で目標を上回る成果を上げており、計画以上に進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目			評価	ウエイト	ウエイト換算
1 医療サービス	(1)良質な医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	3	2	6
	(2)地域医療への貢献と医療連携の推進	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(3)災害・感染症等への適切な対応	こども病院	5	2	10
		市民病院	5	2	10
2 患者サービス	(1)患者サービスの向上	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2)情報発信	こども病院	3	1	3
		市民病院	3	1	3
3 医療の質の向上	(1)病院スタッフの計画的な確保と教育・研修	こども病院	3	2	6
		市民病院	4	2	8
	(2)信頼される医療の実践	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
合計				26	a 94
標準点(※全ての小項目評価が3)				b 78	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1-(1) 良質な医療の実践 ア福岡市立こども病院」

○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、また、「循環器集中治療科」や「こどもアレルギーセンター」を新設するなど、小児総合医療施設として求められる役割を果たすべく診療機能の充実を図っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア福岡市立こども病院」

○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、特に逆紹介率については目標値を大幅に上回っている。また、Webを積極的に活用したオープンカンファレンスや研修会等の開催や退院前後の訪問指導の実施など、地域医療への貢献や医療連携の推進を図っており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ福岡市民病院」

○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、特に紹介率・逆紹介率については目標値を大幅に上回っている。また、特定行為研修による外部看護師の育成や、多職種連携による在宅療養支援の充実など、地域医療への貢献や医療連携の推進を図っており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 ア福岡市立こども病院」

○ コロナのいわゆる第7波に際しては、急増する小児患者について、市の要請も踏まえ、休日診療体制を整備するなど積極的に対応し、また、重症度の高い患者の受入れにも積極的に対応し多くの救急搬送患者を受け入れるなど、市立病院としての役割を果たしたことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。

「1-(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 イ福岡市民病院」

○ 目標値は全ての項目で達成したほか、前年に引き続きJMAT(日本医師会災害医療チーム)活動や市が実施する転院支援事業に積極的に取り組んだことに加え、感染症対策としてICIC(感染対策情報発信センター)による情報提供や、関係機関との合同での感染対策訓練の実施、院内クラスターが発生した地域の医療機関への指導助言など、地域全体での感染症対策の質向上に向けて取り組んだことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。

「3-(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 イ福岡市民病院」

○ 医療の質向上研修受講率はWeb研修を活用するなど実施方法を工夫した結果100%に達しており、また、人材確保の観点からも職場環境づくりに取り組んだ結果、看護師の離職率が県内の離職率の平均値や全国公立病院の離職率の平均値より低い値で推移しているなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ 両病院ともに救急搬送件数が増加しているのは、小児のコロナ患者や、コロナにより地域の医療機関で受入困難となった患者等を積極的に受け入れた結果であり、高く評価できる。
- ・ 感染症への対応については、市と十分に連携を図って取り組んでもらいたい。
- ・ オープンカンファレンス等を積極的に行っており、実際の参加人数も増加していることは高く評価できる。
- ・ 市民病院のホームページへのアクセス数の減少理由を、採用情報が機構本部のサイトへ移動したこととしているが、本来この項目での情報発信は患者サービスの向上に関することであり、患者サービス向上の視点から改善策の検討に努めるべき。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善すべき事項がある (特に認める)
【 100 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
地方独立行政法人の特長を生かした自律的・機動性の高い病院経営が行われている。働きがいのある職場環境づくりにも積極的に取り組むとともに、法令に基づき内部統制も適正に維持されていることから、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目	評価	ウエイト	ウエイト換算
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	3	1	3
2 事務部門の機能強化	3	1	3
3 働きがいのある職場環境づくり	3	1	3
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	3	1	3
合計		4	a 12
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・メンタルヘルス等の面談を積極的に実施していることは評価できる。育児支援制度を新設しているが、それらの制度を職員が取得しやすい環境とすることも重要。
- ・医師の働き方改革への対応は喫緊の課題であり、適切な取組を進める必要がある。
- ・今後より一層人材確保が難しくなることが予想され、離職防止、定着促進の重要度が増す。エキスパートの育成とともに、一般職員のリスクリング等を含めた職員のキャリアアップや、セカンドキャリア等定年退職以降も含めた働きがいのある職場環境づくりに向け、検討を進めてもらいたい。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善すべき事項がある (特に認める)
【 100 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
両病院とも増収対策や費用削減に取り組み、また、コロナ対策の取組による国や県からの補助金が交付された結果、当期純利益を確保しており、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目			評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 持続可能な 経営基盤の 確立	(1)経営基盤の安定化と運営費 負担金の適正化	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2)投資財源の確保		3	1	3
2 収支改善	(1)収益確保	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2)費用削減	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
合計				13	a 39
標準点(※全ての小項目評価が3)				b 39	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ 目標値と実績値の乖離が大きな項目については、その理由について、より丁寧に分析する必要がある。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善すべき事項がある (特に認める)
【 117 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
福岡市立こども病院においては、医療機能の充実を図るとともに、臨床研究や治験業務などで順調な成果を上げていること、また、福岡市民病院においては、地域連携や高度医療の推進、コロナ対策などにおいて、求められる役割を果たしていることから、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目	評価	ウエイト	ウエイト換算
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	4	2	8
2 福岡市民病院における経営改善の推進	3	2	6
合計		4	a 14
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1 福岡市立こども病院における医療機能の充実」

○ 循環器集中治療科の新設による重症集中治療系医療体制の拡充や、臨床研究や治験への積極的な取組など、小児総合医療施設として求められる役割を果たすべく医療機能の充実を図っており、またコロナの感染拡大時における小児感染症医療の提供体制の確保に努めたことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

・ 両病院ともに、おおむね令和3年度と同様の成果を上げているものと思われる。

(2) 小項目評価
別紙のとおり

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和４年度の業務実績に関する評価結果

小項目評価

1 福岡市立病院機構の概要

(1) 現況（令和4年4月1日現在）

① 法人名

地方独立行政法人福岡市立病院機構

② 本部の所在地

福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号

③ 役員の状況

役員	氏名	備考
理事長	原 寿郎	福岡市立こども病院 院長
副理事長	桑野 博行	福岡市民病院 院長
理事	石橋 達朗	九州大学 総長
	瓜生 道明	九州電力株式会社 代表取締役会長
	神坂 登世子	国際医療福祉大学 九州地区生涯教育センター副センター長
	野中 耕太	運営本部 運営本部長
監事	久留 和夫	公認会計士
	柳澤 賢二	弁護士

④ 設置・運営する病院

病院名	所在地	病床数
福岡市立こども病院	福岡市東区香椎照葉5丁目1番1号	一般病床 239床
福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町13番1号	一般病床 200床 感染症病床 4床

⑤ 職員数

（令和4年5月1日現在）

区 分	職員数
合 計	997人
福岡市立こども病院	600人
福岡市民病院	384人
運営本部	13人

(2) 基本的な目標等

地方独立行政法人福岡市立病院機構は、地方独立行政法人制度の特長である自律性、自主性を最大限に発揮し、医療制度改革や診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ、効率的な病院経営を行いながら、地域の医療機関等との機能分担や連携の下、引き続き高度専門医療、救急医療等を提供し、地域における医療水準の向上、市民の健康の維持及び増進に寄与すべく、以下の基本理念及び基本方針の下、福岡市長から指示された中期目標を達成する。

〈基本理念〉

いのちを喜び、心でふれあい、すべての人を慈しむ病院を目指します。

〈基本方針〉

質の高い医療の提供

地域・社会に貢献する病院

健全な病院経営

2 全体的な状況

(1) 取組の総括と課題

法人設立13年目となる令和4年度については、福岡市から示された第4期中期目標期間の2年目であったが、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の影響が継続する中、市立病院としての役割を果たすため、引き続きコロナ対応に取り組むとともに、病院機能を可能な限り維持し、更にこれらの機能の強化や経営の効率化等に取り組んだ。

コロナ対応については、感染動向が変化し、比較的軽症の感染者数が著しく増加する中で、両病院ともに対策本部の設置を継続し、院内の感染防止対策の徹底や研修を実施するとともに、人員の確保、資機材の調達等、診療体制の確保・維持に努め、患者の受入れを積極的に行った。

令和4年度の年度計画については、引き続き、福岡市立こども病院においては、中核的な小児総合医療施設としてこれまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実を図り、また、福岡市民病院においては、コロナ対策における福岡市の中核的な役割を果たすとともに、高度専門医療、救急医療について可能な限り通常診療の維持・充実に取り組んだ。

経営収支面では、収益確保として、適宜、病院幹部によるモニタリングや協議を行う等、効率的な病棟運用を行うとともに、令和4年4月の診療報酬改定に際し、的確な情報収集を行い、適切な施設基準の取得やレセプト請求の精度向上等に取り組み、また、費用削減として診療材料等の選定や価格交渉の徹底等に取り組んだ。そのほか、コロナ対応に係る国や県からの補助金の交付もあり、当期純利益は福岡市立こども病院において7億円余、福岡市民病院において8億円余となった。

今後の課題として、経営環境についてはコロナの感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」へ移行することを踏まえつつ、両病院ともに、引き続き感染症への対応を適切に行うとともに、福岡市立こども病院においては、求められる高度小児医療、小児救急医療及び周産期医療を提供する病院としての役割を果たしていくため、医療環境の変化を見据えながら、医療機能等について検討を進めていく必要がある。

また、福岡市民病院においては、地域医療構想及び医療計画にて地域で必要とされる高度専門医療及び救急医療体制を提供するために必要な取組を継続して行うとともに、災害時や感染症等発生時等の緊急時には、事業継続計画に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、市立病院として求められる役割を果たす必要がある。

(2) 大項目ごとの取組状況及び特記事項

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 医療サービス

福岡市の医療施策として求められる高度専門医療、高度救急医療等を引き続き提供するために、診療機能の更なる充実を図った。

福岡市立こども病院においては、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、急増する小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を積極的に提供した。また、コロナ対応以外では、循環器集中治療科の新設、アレルギー看護外来の本格稼働、次いでこどもアレルギーセンターの設置など診療機能の強化・充実に取り組んだ。

福岡市民病院においては、引き続き、行政や他の指定感染症医療機関等と緊密な連携をもちながら、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」としてコロナ専用病床を確保し、積極的な患者受入れに取り組むなど福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たすとともに、コロナ以外の対応においても、内視鏡画像診断支援システムの導入や、C T（コンピューター断層撮影装置）についてこれまでの半分以上の被ばく線量で高画質な画像撮影が可能な最新機器に更新するなど、高度専門医療の更なる充実を図った。また、日本脳卒中学会によるP S C（一次脳卒中センター）コア施設の認定を受けるなど地域の総合的な脳卒中センターとして活動する体制を整えるとともに、福岡大学病院救命救急センターより週1回医師を招聘するなど救急受入体制の強化を図った。

加えて、両病院ともに令和3年度に引き続き、W e bなどを活用したオープンカンファレンスを実施するなど、地域の医療機関を中心に積極的な病病連携・病診連携に努めた。

2 患者サービス

患者一人ひとりに質の高い医療及び充実した看護を提供することが患者サービスの基本と捉えたうえで、より一層の接遇改善を含め、職員が一丸となって患者サービスの向上に取り組み、患者満足度の向上に努めた。

福岡市立こども病院においては、マリンワールドとの共同による「オンライン水族館」の開催、O F C（アレルギー食物負荷試験）退院後の初回外来診療及び栄養指導のオンラインでの実施、福岡市立こども病院のL I N E公式アカウントからの各種外来予約の本格運用の開始など、患者サービスの向上を図った。

福岡市民病院においては、患者用無料W i - F iを全館で使用可能とする環境の整備や総合案内でのロボットの本格稼働、全館のトイレ等の水回り改修工事の実施など、患者サービスの向上及び職員の負担軽減を図った。

さらに、両病院ともに、患者や医療関係者等にとって情報が探しやすくなるホームページの全面リニューアルを行うとともに、出前講座や生涯学習講座を行うなど積極的に情報を発信し、医療機関、市民・患者に開かれた病院づくりに努めた。

3 医療の質の向上

実習生の受入れやWebを活用した説明会等を実施して、意欲ある人材の確保に努めるとともに、専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促進した。

福岡市立こども病院においては、院内のケアプロセス形式監査を実施するなど、病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組んだ。

また、薬剤師によるTPN（中心静脈栄養輸液）無菌調製を一般病棟に拡大して実施するとともに、臨床工学技士による人工呼吸器の管理体制の強化に取り組むなど安全性の向上及び医師・看護師の負担軽減を図った。

福岡市民病院においては、派遣会社を活用して看護師を確保するなど、看護職員の負担軽減を図るとともに、職員の欠員に対して、代替職員の配置を適宜行うなど職種ごとの定数管理を確実にを行うとともに、年次有給休暇の取得率向上に向けた取組や、職員の休憩スペースの確保など、職員が長く働き続けられる職場環境づくりを推進した。

両病院ともに、市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、感染症専門医や感染管理認定看護師等を中心に院内の感染防止対策の徹底を図るとともに、Web等を活用した他病院との情報交換や相互評価等により地域における医療安全対策の質の向上に取り組むなど、医療安全対策の強化を図った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実

法人運営を的確に行うため、令和4年度は計9回（うちWeb開催2回）の理事会を開催し、理事会の方針決定に沿って自律的な運営を行った。

また、病院長のリーダーシップの下、執行部会議や経営五役会議等を開催し、医療情勢の変化や患者のニーズに対応できるよう迅速な意思決定、情報共有を図りながら、各病院の実態に即した機動性の高い病院経営に取り組むとともに、運営本部と両病院合同による経営会議及び運営調整会議を毎月開催し、法人全体的な視点から、市立病院として適切な法人運営に取り組んだ。

2 事務部門の機能強化

資質向上を目的とした研修を実施するとともに、人事評価システムを医師以外の全職員に導入するなど事務の簡素化・効率化等に努めた。

また、中堅の事務職員を外部主催の病院中堅職員育成研修に参加させるなど、事務職員の能力向上に努めた。

3 働きがいのある職場環境づくり

病児保育利用料助成制度及び産後パパ育休（出生時育児休業）を新設するなど制度の充実に取り組むとともに、全職員を対象にメンタルヘルス研修及びハラスメント研修を実施した。

両病院において、医師のタスクシフトに積極的に取り組み、時間外勤務の適正化に努めた。

また、コロナ対応を行う職員に対する特殊業務手当（新型コロナウイルス感染症従事手当）の支給や看護職員の処遇改善のための特殊業務手当（看護職員特別調整手当）の金額引上げ、国の補助金の趣旨に則った一時金の支給を行った。

4 法令遵守と公平性・透明性の確保

管理監督者に対するWeb動画を活用したコンプライアンス研修を実施し、また、全職員への情報セキュリティ研修などによる個人情報保護等の教育を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めるとともに、令和5年4月施行の改正個人情報保護法に対応できるよう要綱や個人情報ファイル簿を作成し公表した。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 持続可能な経営基盤の確立

執行部会議等を定期的に開催し、病院の経営状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にしたうえで、収益確保及び費用削減に取り組むとともに、月次決算の実施等経営に関する情報を迅速に把握し、経営分析や他病院との比較・分析等を通じて、効率的な病院経営に取り組んだ。

また、収支改善により生じた利益を積み立て、今後の投資計画を踏まえた投資財源の確保を図り、計画的な施設整備、高額医療機器の更新や必要な医療機器の購入等、効果的な投資を行った。

2 収支改善

両病院ともに、診療報酬改定に際し的確な情報収集を行い、適切な施設基準の取得及び維持に努めるとともに、ICT（情報通信技術）の活用による業務効率化や、給与費比率の適正化、価格交渉等による診療材料費の更なる縮減を行った。

福岡市立こども病院においては、効率的な病棟運用の実施、国や県のコロナ関連補助金を含む各種補助金の申請、院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に査定傾向の分析に基づいた診療報酬請求プロセスの改善活動を病院全体で実施し、医業収益は94億1,600万円余で、前年度より2億7,300万円余の増となった。福岡市民病院においては、新規入院患者の確保を目的とした新規開業医療機関への訪問等を実施したほか、各診療科医師との連携や改善点等についての情報共有を行うなどレセプト請求の精度向上に取り組んだが、コロナの影響等により、医業収益は55億4,200万円余で、前年度より1億3,800万円余の減となった。

これらの結果、福岡市立こども病院においては、経常収支比率及び医業収支比率が目標を上回り、福岡市民病院においては、医業収支比率は目標を下回ったが、経常収支比率は目標を上回り、法人全体での当期純利益は16億1,400万円余となった。

【医業収益】

(単位：千円)

区 分	令和3年度実績	令和4年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	9,142,694	9,416,163 (9,280,044)	273,469 (136,119)
福岡市民病院	5,680,436	5,542,365 (5,670,204)	▲138,071 (▲127,839)
法人全体	14,823,130	14,958,528 (14,950,248)	135,398 (8,280)

【営業費用】

(単位：千円)

区 分	令和3年度実績	令和4年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	10,407,829	10,632,949 (10,746,474)	225,120 (▲113,525)
福岡市民病院	7,157,946	7,138,187 (6,990,652)	▲19,758 (147,535)
法人全体	17,565,774	17,771,136 (17,737,126)	205,362 (34,010)

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているの、端数において合計とは一致しないものがある。

【経常収支比率】

(単位：%)

区 分	令和3年度実績	令和4年度実績 ()は予算上の目標値	比較増減 ()は実績－目標値
福岡市立こども病院	105.6	106.8 (100.2)	1.2 (6.6)
福岡市民病院	116.1	114.7 (98.4)	▲1.4 (16.3)
法人全体	109.8	110.0 (99.5)	0.2 (10.5)

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

1 福岡市立こども病院における医療機能の充実

厚生労働省DPC（診断群分類）公開データにおいて、川崎病（151例）及び先天性心疾患に係る手術症例（178例）について、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が7年連続で全国1位となった。

また、科学研究費助成事業（文部科学省）で研究代表として採択された課題等に積極的に取り組み、15件（うち研究代表4件）の研究に参加した。治験業務については、アクティブプロトコル32件（うち新規11件）を実施し、新たに11人の患者へ治験を開始した。

さらに、国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、医療英語・中国語・フランス語研修を開催したほか、臓器提供の申出に円滑に対応できるよう、外部講師による講演会を開催するとともに、脳死判定及び臓器提供のシミュレーションを実施した。

2 福岡市民病院における経営改善の推進

令和3年度に示された福岡市病院事業運営審議会からの答申を受け、「I C I C（感染対策情報発信センター）」を設置し、地域の医療従事者向けに感染症対策等に係る情報発信を開始するなど地域における感染症対策の質の向上に取り組んだ。

コロナ対応については、引き続きコロナ専用の受入病床（即応病床43床）を確保し、福岡市におけるコロナ対応の中核的な役割を果たしながら、通常診療を途切れさせないため、診療科や病棟の垣根を越えた患者受入れを行うとともに、紹介患者の確保のための新規開業医療機関への訪問活動等の取組を重点的に行った。

令和4年度診療報酬改定を踏まえ、当院の高度専門医療を維持するため、高度な手術を必要とする新規入院患者を確保しながら、急性期を脱した患者の転院・退院調整を促進した結果、急性期病床に係る入院料の施設基準を維持することができた。また、コロナの5類移行に向けて、院内に「5類対応ワーキングチーム」を設置し、ポストコロナを見据え、安定的な医業収益の確保と、補助金による損失補填に依存しない収支改善に向けた取組を開始した。

中長期修繕計画に基づき、緊急性の高い2階機械室の防水工事や療養環境改善のためのトイレ等水回りの改修工事を実施するとともに、高度専門医療の提供に必要な医療機器を購入するなど、必要な投資を行った。

【福岡市民病院 医業収支比較】

（単位：百万円）

区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
医業収益 a	6,065	5,617	5,525	5,680	5,542
営業費用 b	6,549	6,442	6,972	7,158	7,138
差引（a－b）	▲483	▲825	▲1,447	▲1,478	▲1,596
比率（a／b）	92.6%	87.2%	79.2%	79.4%	77.6%

（注） 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

【主な目標値の達成状況】

区 分		福岡市立こども病院			福岡市民病院		
		4年度 目標値	4年度 実績値	達成率	4年度 目標値	4年度 実績値	達成率
患者 動向	1人1日当たり入院単価（円）	109,900	111,703	101.6	68,394	79,493	116.2
	1人1日当たり外来単価（円）	11,700	11,500	98.3	24,600	24,871	101.1
	1日当たり入院患者数（人） （病床利用率（％））	200.0 (83.7)	200.7 (84.0)	100.4 (100.4)	174.1 (85.4)	144.8 (71.0)	83.2 (83.1)
	新規入院患者数（人）	7,200	7,486	104.0	4,432	4,044	91.2
	平均在院日数（日）※1	9.9	8.8	112.5	12.6	12.0	105.0
	1日当たり外来患者数（人）	383.0	397.0	103.7	205.0	212.0	103.4
医業 活動	手術件数（件）	2,700	2,599	96.3	3,760	3,580	95.2
	救急搬送件数（件）	1,200	1,923	160.3	2,810	3,037	108.1
	紹介率（％）	90.0	93.4	103.8	88.0	101.4	115.2
	逆紹介率（％）	66.7	81.7	122.5	152.2	208.2	136.8
	薬剤管理指導件数（件）	5,200	4,342	83.5	8,000	5,925	74.1
	栄養食事指導・相談件数（件）	1,400	1,501	107.2	900	1,001	111.2
患者 満足	退院時アンケートの平均評価点数 （こども病院）（100点満点）	89.0	89.4	100.4	—	—	—
	患者満足度調査における平均評価 点数（福岡市民病院）（100点満点）	—	—	—	89.8	90.5	100.8
経営 収支	給与費対医業収益比率（％）※1	62.8	60.3	104.1	65.6	66.7	98.4
	材料費対医業収益比率（％）※1	18.8	19.7	95.4	28.6	31.0	92.3
	薬品費対医業収益比率（％）※1	5.4	6.4	84.4	7.7	9.9	77.8
	診療材料費対医業収益比率（％）※1	13.2	13.0	101.5	20.5	20.9	98.1
	委託費対医業収益比率（％）※1	11.0	10.3	106.8	8.0	8.6	93.0
	ジェネリック医薬品導入率（％）※2	85.0	87.3	102.7	88.7	86.7	97.7
	経常収支比率（％）	100.2	106.8	106.6	98.4	114.7	116.6
	医業収支比率（％）	86.2	88.6	102.8	81.0	77.6	95.8

※1 実績値が低い方が目標を達成している項目（達成率は目標値/実績値で算出）

※2 ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合にて算出している。

3 項目別の状況

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア 福岡市立こども病院 高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実に取り組むとともに、移行期医療や医療的ケア児への対応等、福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう、診療機能の充実や見直しを図る。	(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア 福岡市立こども病院 ○ 「福岡県新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関」として、引き続き、福岡県における新型コロナウイルス感染症に係る小児救急医療の提供を行うとともに、「後遺症紹介先医療機関」として、罹患後症状（後遺症）に対する医療の提供を行う。 ○ 福岡県の地域周産期母子医療センターとして、地域の分娩施設等からの母体搬送・新生児搬送を受け入れ、高度な周産期医療を提供するとともに、「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、地域における周産期救急搬送体制の一翼を継続的に担う。 ○ 移行期支援外来(たけのこ外来)を中心に、移行期患者教育プログラムを着実に実施する。 ○ 福岡県等が実施する「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に引き続き参加し、地域の小児在宅医療の推進に努める。 ○ 患者及び家族が安心して入院生活を送れるよう、多職種協働による入退院支援部門の更なる拡充を図る。

中期目標 (内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的かつ継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 ア 福岡市立こども病院 これまで培ってきた高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、中核的な小児総合医療施設として求められる役割を果たすこと。
----------------------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」(令和4年5月指定)として、急増する小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を積極的に提供した。また、「後遺症紹介先医療機関」として、罹患後症状に対する医療の提供を行った。 ○ 「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、切迫早産等新生児病床を必要とする緊急母体搬送症例を積極的に受け入れる(4年度91件、3年度128件)とともに、ドクターカーによる新生児の迎え搬送を積極的に行う(4年度91件、3年度131件)など、地域における周産期救急搬送体制の一翼を担った。 ○ 移行期支援外来(たけのこ外来)において、令和3年度に設置した「たけのこ外来予約枠」を活用し、移行期患者教育プログラムを着実に実施(4年度64人、3年度28人)するとともに、移行期支援のプレ期となる10歳以上の患者及び患者家族に対して、移行期支援外来の目的やセルフケアの確立に向けての教育を行った(4年度24人、3年度59人)。 ○ 福岡県等が実施する「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に引き続き参加し、医療的ケア児のレスパイト入院を受け入れた(4年度12人、延べ59日、3年度9人、延べ33日)。 ○ 引き続き、看護師、MSW(医療ソーシャルワーカー)等の多職種協働による「入退院支援推進チーム」により、8診療科(眼科・耳鼻いんこう科・小児外科・泌尿器科・循環器科・皮膚科・脳神経外科、形成外科)の入院予定患者(4年度延べ2,891人、3年度延べ3,152人)に対して、患者情報の聴取や入院に関する情報提供等の入院支援を実施した。	2	4	4	○ 小児のコロナ患者に対する医療をはじめ、小児救急医療、周産期医療、移行期医療及び医療的ケア児への対応に着実に取り組んでいる。 ○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、また、「循環器集中治療科」や「こどもアレルギーセンター」を新設するなど、小児総合医療施設として求められる役割を果たすべく診療機能の充実を図っていることから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画																																																													
	○ 循環器集中治療科を新設し、重症集中治療系医療体制の充実を図る。 ○ フォーミュラリー※の作成・運用を実施し、エビデンスと経済性に基づく小児薬物治療の推進を図る。 ※各々の医療機関等において、医学・薬学的妥当性や経済性等を踏まえて作成された医薬品の使用方針。 ○ 様々な症状を呈するアレルギー疾患の患者に対し、関係診療科及び多職種が連携し、総合的かつ包括的に診断・治療を行うことを目的として、院内に「アレルギーセンター（仮称）」を設置するとともに、令和3年度に試行開始した小児アレルギーエデュケーターの資格を有する小児看護専門看護師による適切な生活指導や相談を行う「アレルギー看護外来」を本格稼働させ、質の高い小児看護の提供に取り組む。																																																													
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="3">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>108,393</td><td>112,546</td><td>110,000</td></tr><tr><td>1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率※ （%））</td><td>215.5 (90.2)</td><td>190.0 (79.5)</td><td>205.5 (86.0)</td></tr><tr><td>新規入院患者数 （人）</td><td>7,428</td><td>6,180</td><td>6,883</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>2,929</td><td>2,730</td><td>2,800</td></tr><tr><td>救急搬送件数 （件）</td><td>1,380</td><td>963</td><td>1,060</td></tr><tr><td>PICU(小児集中治療室)利用率 （%）</td><td>98.1</td><td>98.1</td><td>98.1</td></tr><tr><td>NICU(新生児集中治療室)利用 率（%）</td><td>95.7</td><td>94.3</td><td>95.5</td></tr></table> ※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出	指標	福岡市立こども病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	1人1日当たり 入院単価（円）	108,393	112,546	110,000	1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率※ （%））	215.5 (90.2)	190.0 (79.5)	205.5 (86.0)	新規入院患者数 （人）	7,428	6,180	6,883	手術件数（件）	2,929	2,730	2,800	救急搬送件数 （件）	1,380	963	1,060	PICU(小児集中治療室)利用率 （%）	98.1	98.1	98.1	NICU(新生児集中治療室)利用 率（%）	95.7	94.3	95.5	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和2年度 実績値</th><th>令和4年度 目標値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>112,693</td><td>109,900</td></tr><tr><td>1日当たり入院患者 数（人） （病床利用率※ （%））</td><td>187.8 (78.6)</td><td>200.0 (83.7)</td></tr><tr><td>新規入院患者数（人）</td><td>6,195</td><td>7,200</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>2,603</td><td>2,700</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>980</td><td>1,200</td></tr><tr><td>PICU（小児集中治療室）利用率（%）</td><td>98.4</td><td>98.0</td></tr><tr><td>NICU（新生児集中治療室）利用 率（%）</td><td>95.3</td><td>97.0</td></tr></table> ※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出	指標	福岡市立こども病院		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値	1人1日当たり 入院単価（円）	112,693	109,900	1日当たり入院患者 数（人） （病床利用率※ （%））	187.8 (78.6)	200.0 (83.7)	新規入院患者数（人）	6,195	7,200	手術件数（件）	2,603	2,700	救急搬送件数（件）	980	1,200	PICU（小児集中治療室）利用率（%）	98.4	98.0	NICU（新生児集中治療室）利用 率（%）	95.3	97.0
指標		福岡市立こども病院																																																												
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																																																											
1人1日当たり 入院単価（円）	108,393	112,546	110,000																																																											
1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率※ （%））	215.5 (90.2)	190.0 (79.5)	205.5 (86.0)																																																											
新規入院患者数 （人）	7,428	6,180	6,883																																																											
手術件数（件）	2,929	2,730	2,800																																																											
救急搬送件数 （件）	1,380	963	1,060																																																											
PICU(小児集中治療室)利用率 （%）	98.1	98.1	98.1																																																											
NICU(新生児集中治療室)利用 率（%）	95.7	94.3	95.5																																																											
指標	福岡市立こども病院																																																													
	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値																																																												
1人1日当たり 入院単価（円）	112,693	109,900																																																												
1日当たり入院患者 数（人） （病床利用率※ （%））	187.8 (78.6)	200.0 (83.7)																																																												
新規入院患者数（人）	6,195	7,200																																																												
手術件数（件）	2,603	2,700																																																												
救急搬送件数（件）	980	1,200																																																												
PICU（小児集中治療室）利用率（%）	98.4	98.0																																																												
NICU（新生児集中治療室）利用 率（%）	95.3	97.0																																																												

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																											
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																										
○ 4月に循環器集中治療科を新設し、循環器科及び集中治療科の医師が心臓血管外科医と連携して、心臓血管外科対象症例を中心に術後管理を行うなど、重症集中治療系医療体制の充実を図り、より質の高い医療の提供を行った。 ○ 令和3年度に作成した鎮痛薬に続き、令和4年度には経口抗ヒスタミン剤のフォーミュラリーを作成し、エビデンスと経済性に基づく小児薬物治療の更なる適正使用を図った。 ○ 10月に「こどもアレルギーセンター」を設置し、診療科の垣根を越えた包括的かつ専門性の高い総合アレルギー診療の提供を開始した。 また、7月から「アレルギー看護外来」の本格稼働を開始し、小児アレルギーエドクターの資格を有する小児看護専門看護師等により、適切な生活指導や相談を行い（4年度56件）、質の高い小児看護を提供した。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>109,403</td><td>111,703</td></tr><tr><td>1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率※ （％））</td><td>198.9 (83.2)</td><td>200.7 (84.0)</td></tr><tr><td>新規入院患者数(人)</td><td>7,104</td><td>7,486</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>2,705</td><td>2,599</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>1,269</td><td>1,923</td></tr><tr><td>PICU（小児集中 治療室）利用率（％）</td><td>98.1</td><td>97.1</td></tr><tr><td>NICU（新生児集 中治療室）利用率 （％）</td><td>97.9</td><td>97.2</td></tr></table> ※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出	指標	福岡市立こども病院		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	109,403	111,703	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率※ （％））	198.9 (83.2)	200.7 (84.0)	新規入院患者数(人)	7,104	7,486	手術件数（件）	2,705	2,599	救急搬送件数（件）	1,269	1,923	PICU（小児集中 治療室）利用率（％）	98.1	97.1	NICU（新生児集 中治療室）利用率 （％）	97.9	97.2				
指標		福岡市立こども病院																												
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値																												
1人1日当たり 入院単価（円）	109,403	111,703																												
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率※ （％））	198.9 (83.2)	200.7 (84.0)																												
新規入院患者数(人)	7,104	7,486																												
手術件数（件）	2,705	2,599																												
救急搬送件数（件）	1,269	1,923																												
PICU（小児集中 治療室）利用率（％）	98.1	97.1																												
NICU（新生児集 中治療室）利用率 （％）	97.9	97.2																												

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 循環器集中治療科及びこどもアレルギーセンターの新設、アレルギー看護外来の本格稼働など、診療機能の強化・充実に取り組んだ。目標値については、コロナ感染拡大に伴う手術中止・延期が増加したため、手術件数は目標値を下回ったが、それ以外のほとんどの指標で目標値を上回った。特に救急搬送件数については、重点医療機関としてコロナ第7波で急増した小児感染患者の救急搬送を積極的に受け入れたことにより、目標値を大きく上回るなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 イ 福岡市民病院 ① 福岡県保健医療計画及び地域医療構想に基づき、公立病院に求められる高度専門医療の更なる充実を図る。 ② 入院を必要とする重症度の高い救急患者の受入を円滑に行うため、救急医療の更なる充実を図る。	(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 イ 福岡市民病院 新型コロナウイルス感染症対策を徹底して行い、患者と職員の安心と安全を十分に確保するとともに、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、引き続き対応を行いながら、公立病院に求められる高度専門医療・救急医療の安定的な提供に取り組む。 ① 福岡県保健医療計画及び地域医療構想に基づき、がん、心疾患、脳卒中に係る難易度の高い鏡視下手術やカテーテル治療等、高度専門医療の更なる充実を図る。 入院治療が必要な症例の迅速かつ適切な診断・治療を目的として、消化器内視鏡治療体制を強化するため、内視鏡検査台を2台から3台に拡充するとともに、病変のリアルタイム検出・鑑別が可能な内視鏡AIシステムを導入し、診断の精度向上を図る。 ② 入院を必要とする重症度の高い救急患者の受入を円滑に行うため、救急受入に係る体制や受入病床の運用を見直すなど、救急医療の更なる充実を図る。

中期目標(内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的かつ継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 イ 福岡市民病院 高度専門医療を担う地域の中核病院としての機能を維持するとともに、高度救急医療の更なる充実を図ること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ コロナの流行に対しては、行政や他の医療機関等と緊密な連携をもちながら、公立病院として、また「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、引き続き福岡市における中核的な役割を果たした。 指定感染症病床（4床）に加え、一般病棟4病棟のうちの1病棟（49床）及びハイケアユニット（4床）をコロナ専用病棟とし、患者と職員の安心と安全を十分確保しながら、令和3年度に引き続きコロナ対応に取り組んだ。 コロナ対応以外の一般病棟、I C U（集中治療室）及びS C U（脳卒中集中治療室）においては、診療科や病棟の垣根を越えた患者受入れに努め、通常診療の維持・充実に取り組んだ。 また、令和4年度診療報酬改定に伴う入院料の施設基準の変更（重症度、医療・看護必要度）に対応するため、対象患者の確保や急性期を脱した患者等に対し、回復期等の医療機関等への転院・退院調整等を行う病床管理に取り組んだ。その影響もあり、コロナ専用病棟を除く一般病棟の病床利用率は前年度より低下した（4年度89.5%、3年度93.9%）。一方で、入院単価は前年度より向上し（4年度79,493円、3年度78,153円）、診療報酬特例措置の加算を除いても77,334円と高水準となった。 ① クラスターの発生による入院制限等の影響を受けたものの、腹腔鏡下手術等の高度な手術に取り組み、手術件数は微減に止めることができた（鏡視下手術：4年度292件、3年度310件）。 また、消化器内視鏡治療体制を強化し、入院治療が必要な症例の迅速かつ適切な診断・治療を行うため、4月に内視鏡検査台を2台から3台に拡充した。その結果、検査効率が上がり、増加傾向にある検査件数へ対応可能となり安全性も向上した。あわせて、医療A I（人工知能）技術である内視鏡画像診断支援システムを導入した。検査時の病変の検出率や鑑別能が向上し、内視鏡診療全般の効率やホスピタリティが改善した。	2	3	3	○ コロナへの対応については、引き続き本市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たすとともに、高度専門医療及び救急医療についても着実に取り組んでいる。 ○ コロナ等の影響を受けて、入院患者数や手術件数で目標値を下回った。しかし、救急搬送件数や入院単価は目標値を上回っており、脳卒中相談窓口を開設し、また、内視鏡検査やC T検査等の充実を図るなど、高度専門医療の提供に取り組んでいることなどから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画

年度計画

【目標値】

指標	福岡市民病院		
	令和元年度 実績値	令和２年度 見込値	令和６年度 目標値
１人１日当たり入院単価（円）	64,081	69,327	66,300
１日当たり入院患者数（人） （病床利用率※（％））	183.9 (90.2)	167.5 (82.1)	190.0 (93.1)
新規入院患者数（人）	4,525	4,053	4,769
手術件数（件）	3,719	3,437	3,815
救急搬送件数（件）	2,820	2,404	3,023
救急搬送患者の入院率（％）	44.0	43.6	43.6

※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出

【目標値】

指標	福岡市民病院	
	令和２年度 実績値	令和４年度 目標値
１人１日当たり入院単価（円）	73,748	68,394
１日当たり入院患者数（人） （病床利用率※（％））	160.0 (78.4)	174.1 (85.4)
新規入院患者数（人）	4,026	4,432
手術件数（件）	3,625	3,760
救急搬送件数（件）	2,411	2,810
救急搬送患者の入院率（％）	50.4	43.6

※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																								
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																							
5月にCT（コンピューター断層撮影装置）を最新機種に更新し、これまでの半分以上の被ばく線量でかつ高画質な画像撮影が可能となったことで、患者の安全性や診療の効率性を向上させるとともに、CT室の換気設置工事を実施し感染対策を強化させた。 12月に外来化学療法室のリクライニングチェアを1台増設し、患者の療養環境と診療の効率性を向上させた。 ② 日本脳卒中学会によるPSC（一次脳卒中センター）の認定を更新するとともに、常時、機械的血栓回収療法が実施できる施設として、4月からPSCコア施設の認定を受けた。これにより、地域の医療機関だけでなく救急隊からの要請に対しても、24時間365日、脳卒中や脳卒中を疑う救急患者を受け入れ、可及的速やかに診療・治療を開始できる施設として周知された。加えて、10月には脳卒中患者に対して適切な情報提供を行う「脳卒中相談窓口」を設置し、地域の総合的な脳卒中センターとして活動する体制を整えた（4年度相談件数179件）。 また、救急受入体制を強化するとともに、医師の働き方改革の一環として福岡大学病院救命救急センターから医師の招聘（週1回）を開始し、救急科医師の負担軽減を図った。																											
【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>78,153</td><td>79,493</td></tr><tr><td>1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率※ （％））</td><td>154.0 (75.5)</td><td>144.8 (71.0)</td></tr><tr><td>新規入院患者数 （人）</td><td>4,048</td><td>4,044</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>3,877</td><td>3,580</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>2,565</td><td>3,037</td></tr><tr><td>救急搬送患者の入 院率（％）</td><td>50.1</td><td>43.6</td></tr></table> ※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出					指標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	78,153	79,493	1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率※ （％））	154.0 (75.5)	144.8 (71.0)	新規入院患者数 （人）	4,048	4,044	手術件数（件）	3,877	3,580	救急搬送件数（件）	2,565	3,037	救急搬送患者の入 院率（％）	50.1	43.6
指標	福岡市民病院																										
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値																									
1人1日当たり 入院単価（円）	78,153	79,493																									
1日当たり 入院患者数（人） （病床利用率※ （％））	154.0 (75.5)	144.8 (71.0)																									
新規入院患者数 （人）	4,048	4,044																									
手術件数（件）	3,877	3,580																									
救急搬送件数（件）	2,565	3,037																									
救急搬送患者の入 院率（％）	50.1	43.6																									

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 重点医療機関としてコロナ対応のための病床確保を継続する一方で、感染動向の変化に伴う院内クラスターの複数回発生や、診療報酬改定対応策としての急性期を脱した患者等に対する転院・退院調整による平均在院日数短縮など、様々な状況下にあって、入院患者数、新規入院患者数、手術件数等が目標値を下回ったものの、入院単価や救急搬送件数は目標を上回ったほか、高度専門医療の提供に積極的に取り組み、診療報酬におけるコロナ特例措置の加算分を除いた入院単価は77,334円と高水準となるなど、通常医療を途切れさせないよう取り組んだことから、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス （2）地域医療への貢献と医療連携の推進
中期計画	年度計画
(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 また、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組む。 ② 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、引き続き地域における小児等医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。 ③ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおける中心的な役割を求められていることを踏まえ、回復期・慢性期病院や地域の在宅医療・介護を担う医療機関等との積極的な連携・支援に取り組むとともに、緊急時の円滑な入院受入れを行う。	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア 福岡市立こども病院 ① 地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を推進するとともに、「こども病院カンファレンス」等のオープンカンファレンスを開催するなど、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組む。 ② 福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、地域におけるネットワーク構築や院内における退院支援、多職種を対象とした研修会等を行い、地域の小児在宅医療の推進に努める。 地域医療連携室ニュースレターを年4回発行し、病院の診療体制・診療内容の紹介、地域医療連携に関する情報、カンファレンス・研修会の案内等、登録医療機関への情報発信を継続的に行っていく。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進するとともに、地域包括ケアシステムの推進に取り組む上で求められる役割を果たすよう病院運営に取り組むこと。			
業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 令和3年度に引き続き、コロナ禍により直接の訪問等が制限されたため、連携先とのオンラインミーティング等を通じて、病病・病診連携及び在宅医療・小児慢性特定疾患における多職種連携を図るとともに、「こども病院カンファレンス」等のオープンカンファレンスをWeb開催するなど、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組んだ。 ② 訪問看護ステーションのスタッフを対象とした研修会（テーマ：小児在宅患者の急変時対応）及び医療型・福祉型の短期入所施設や特別支援学校の職員を対象とした研修会（テーマ：呼吸器リハビリテーション）をWebで開催するとともに、当院の新生児集中ケア認定看護師による「令和4年度福岡県小児等在宅医療推進事業小児在宅医療研修会」の動画（テーマ：NICU/GCUでの気管切開管理の看護と退院指導）を制作するなど、「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院としての役割遂行に努めた。 退院前・退院後訪問指導については、コロナ禍のため患者宅への直接訪問による指導は実施せず、リモートでの指導マニュアルを整備し、訪問看護ステーションの協力を得て、ICT（情報通信技術）を活用した遠隔からの患者宅の環境調整及び療養上必要な指導を2回実施した。 前方連携の強化を目的として、登録医宛にニュースレターを送付（4回）し、小児の新型コロナウイルス感染症に関する情報提供や当院の取組、研修会等の案内を行った。 ● 新型コロナワクチン集団接種会場へ職員（医師：延べ50人、看護師：延べ44人、薬剤師：延べ32人）を派遣した。また、福岡市の要請に応じて、院内で11月から乳幼児（生後6か月から4歳まで）に対する新型コロナウイルスワクチン接種を実施した（計19回、延べ286人）。	2	3	4	○ 病病・病診連携や在宅医療・小児慢性特定疾患における多職種連携の推進など、地域医療への貢献に着実に取り組んでいる。 ○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、特に逆紹介率については目標値を大幅に上回っている。また、Webを積極的に活用したオープンカンファレンスや研修会等の開催や退院前後の訪問指導の実施など、地域医療への貢献や医療連携の推進を図っており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画					年度計画				
【目標値】					【目標値】				
指標		福岡市立こども病院			指標		福岡市立こども病院		
		令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値			令和2年度 実績値	令和4年度 目標値	
新規紹介患者数 (人)		8,605	6,350	7,570	新規紹介患者数(人)		8,805	7,500	
紹介率(%)		94.8	89.1	90.0	紹介率(%)		91.1	90.0	
逆紹介率(%)		68.7	61.3	66.7	逆紹介率(%)		63.1	66.7	
オープン カンファレ ンス	回 数 (回)	31	18	24	オープンカ ンファレンス	回 数 (回)	19	36	
	参加者数 ※1(人)	805	600	800		参加者数 ※1(人)	1,217	1,200	
登録医療機関数 (施設)		284	287	285	登録医療機関数(施設)		289	290	
退院支援計画件数 ※2(件)		187	187	210	退院支援計画件数 ※2(件)		189	200	
※1 院外参加者数のみ ※2 退院支援計画書作成件数					※1 院外参加者数のみ ※2 退院支援計画書作成件数				

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指標	福岡市立こども病院					
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値				
新規紹介患者数 (人)	8,397	8,156				
紹介率 (%)	92.6	93.4				
逆紹介率 (%)	66.6	81.7				
オープン カンファレ ンス	回 数 (回)	33				
	参加者数 ※1 (人)	1,298				
登録医療機関数(施 設)	290	289				
退院支援計画件数 ※2 (件)	190	212				
※1 院外参加者数のみ						
※2 退院支援計画書作成件数						
【自己評価の判断理由】						
○ 登録医療機関数を除く全ての指標において 目標値を上回るとともに、W e bを活用した オープンカンファレンス等を通じた地域の医 療従事者等への教育研修の実施や乳幼児に対 する新型コロナウイルスワクチン接種を実施 するなど、年度計画を順調に実施していると 判断し、自己評価は「3」とする。						

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
中期計画	年度計画
(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 また、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組む。 ② 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、引き続き地域における小児等医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。 ③ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおける中心的な役割を求められていることを踏まえ、回復期・慢性期病院や地域の在宅医療・介護を担う医療機関等との積極的な連携・支援に取り組むとともに、緊急時の円滑な入院受入れを行う。	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ 福岡市民病院 ① 地域医療支援病院として、地域の医療機関に対し、I C T（情報通信技術）を活用した積極的な情報発信や、紹介患者の円滑な受入れ、新規開業されたクリニック等への定期的な訪問活動等、病病・病診連携を積極的に推進する。 また、地域の医療従事者への教育研修等を積極的に行い、地域医療への貢献に取り組む。 ③ 地域包括ケアシステムにおいて中心的な役割を果たすため、回復期・慢性期病院や地域の在宅医療・介護を担う医療機関・施設等との積極的な連携・支援に取り組むとともに、緊急時の円滑な入院受入れを行う。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進するとともに、地域包括ケアシステムの推進に取り組む上で求められる役割を果たすよう病院運営に取り組むこと。				
業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)		自己評価		市長の評価	
		ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① W e bを活用したカンファレンス等の開催に加え、令和3年度に開始したメールマガジンサービスについて、163件の配信登録希望医療機関に対し、計5回の配信を行い、当院のトピックスやカンファレンスの模様を録画した動画など、コロナ禍にあっても、情報発信とともに、地域の医療従事者への教育研修に積極的に取り組んだ。 また、当院の皮膚・排泄ケア認定看護師が褥瘡予防に関するW e bセミナーに講師として参加し、全国の看護師等の医療従事者を対象とした講演を実施したほか、看護系大学への講師派遣や、福岡県看護協会に協力し、未就職の看護師の復職研修事業での講演等を行い、また、感染管理認定看護師教育課程の臨地実習を2人(延べ34人)、特定行為研修に係る実習を2人(延べ25人)受け入れるなど、地域の医療従事者の質向上に資する取組を行った。 コロナ禍で制限はありながらも、新たに開業した医療機関(13件)を訪問し、当院の医療機能等の説明を行うなど、地域における病診連携の拡大に取り組んだ結果、当該医療機関から19件(うち入院は8件)の患者紹介を受けた。 3期目を迎える看護師の特定行為研修は、外部からの受講生として、地域の訪問看護ステーションの看護師を1人受け入れ、院内の受講生と合わせ3人で開講し、全員が無事に修了した。 ③ 地域包括ケアシステムにおいては、入院前からの外来・病棟・退院支援部門との多職種連携を図り、早期介入による在宅療養支援の充実に取り組むとともに、在宅医療・介護スタッフとの情報共有や在宅スタッフとの退院前カンファレンスを積極的に行うことで、在宅療養支援における質の向上を図った(退院前カンファレンス件数：4年度57件、3年度60件)。		2	3	4	○ 病病・病診連携の充実や地域包括ケアシステムの推進に、着実に取り組んでいる。 ○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、特に紹介率・逆紹介率については目標値を大幅に上回っている。また、特定行為研修による外部看護師の育成や、多職種連携による在宅療養支援の充実など、地域医療への貢献や医療連携の推進を図っており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画					年度計画				
【目標値】					【目標値】				
指標		福岡市民病院			指標		福岡市民病院		
		令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値			令和2年度 実績値	令和4年度 目標値	
新規紹介患者数 (人)		5,147	4,373	5,035	新規紹介患者数 (人)		4,666	4,841	
紹介率 (%)		88.7	88.0	88.0	紹介率 (%)		98.0	88.0	
逆紹介率 (%)		152.3	152.2	152.2	逆紹介率 (%)		156.2	152.2	
オーフ ンカン ファレン ス	回数 (回)	108	40	100	オーフ ンカン ファレン ス	回数 (回)	18	30	
	参加者数 ※1 (人)	880	100	1,000		参加者数 ※1 (人)	185	200	
登録医療機関数 (施設)		273	273	275	登録医療機関数 (施設)		284	284	
退院調整件数 ※ 2 (件)		1,109	1,046	1,181	退院調整件数 ※ 2 (件)		1,152	1,098	
※1 院外参加者数のみ ※2 入退院支援加算1・介護支援連携指導料の合計件数					※1 院外参加者数のみ ※2 入退院支援加算1・介護支援連携指導料の合計件数				

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)				自己評価		市長の評価	
				ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】							
指標		福岡市民病院					
		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値				
新規紹介患者数 (人)		4,370	4,530				
紹介率 (%)		95.9	101.4				
逆紹介率 (%)		185.2	208.2				
オープン カンファレ ンス	回数 (回)	41	41				
	参加者数 ※1 (人)	431	390				
登録医療機関数 (施設)		289	314				
退院調整件数 ※2 (件)		1,063	1,192				
※1 院外参加者数のみ							
※2 入退院支援加算1・介護支援連携指導料の合計件数							
【自己評価の判断理由】							
○ 新規紹介患者数は、コロナに対応する病床確保を継続したことから目標値を下回ったものの、その他の指標は全て目標値を上回ったことから、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。							

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (3) 災害・感染症等への適切な対応
中期計画	年度計画
(3) 災害・感染症等への適切な対応 災害・感染症等の発生時やその他の緊急時には、福岡市及び関係機関との連携の下、迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たすとともに、他の自治体等において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、患者受入れや医療従事者の派遣など、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努める。 また、防災マニュアルやBCP（事業継続計画）の定期的な見直しを行うとともに、訓練や備蓄等、災害対応に備えた万全な体制を維持する。 ア 福岡市立こども病院 災害・感染症等の発生時やその他の緊急時には、地域の関係機関等と連携を図り、必要な医療の継続及び医療救護活動等を行うなど、中核的な小児総合医療施設としての役割を果たす。	(3) 災害・感染症等への適切な対応 ○ 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内のBCP（事業継続計画）等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えるとともに、防災マニュアルの周知や防災訓練の実施等を通じ、職員の防災意識を高める。 ○ 防災マニュアルやBCP（事業継続計画）の定期的な見直しを行うとともに、非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底して行い、災害発生時の万全な対応に備える。 ア 福岡市立こども病院 ○ 新興感染症等の感染拡大時における小児感染症医療の提供体制を確保するため、PPE（個人用防護具）の備蓄及び保管体制の強化等、「平時」における有事に備えた取組を行う。 ○ 他の自治体において大規模災害が発生した場合は、全国の小児総合医療施設間で組織された「広域災害時の相互支援システム」における中国・四国・九州・沖縄地区の幹事施設及び令和3年に全国自治体病院協議会が設置した「災害時医療機関相互支援ネットワーク」の参加施設として、関係機関や被災した医療機関等との連携を図り、的確に医療救護活動の支援に努める。

中期目標（内容）	災害・感染症等の発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。 また、他の自治体において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、関係機関や災害協定に基づく医療機関等との連携を図るなど、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努めること。 ア 福岡市立こども病院 高度医療を行う小児総合医療施設として、関係機関と連携を図りながら、必要な医療の継続のため医療資源を最大限活用するなど、役割に応じた適切な対応を図ること。			
業務の実績 （実施状況や評価の判断理由）	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 災害発生に備え、消防計画に基づく防災訓練及び緊急時参集システムを使用した災害時参集訓練（各2回）を実施するとともに、病院施設の被害状況確認及び患者情報伝達など災害対策本部におけるクロノロジー（時系列記録）の作成を主体とした大規模災害発生直後の初動訓練を実施し、職員の防災意識及び対応力の向上を図った。 ○ 院内の防災委員会において、BCP（事業継続計画）の点検を行い、大規模災害時の被害想定等について記載を加えるなどの改定作業に着手するとともに、半年毎に非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を行い、災害発生時の万全な対応に備えた。 ● 令和3年度に設置したプレハブ診察室（4室）を引き続き活用し、感染症外来機能を維持するとともに、コロナ病床を最大43床確保（フェーズ5）するなど、コロナ患者の受入体制を整備した。 コロナの感染拡大に際しては、フェーズに応じて入院時や肺機能検査等の排気を伴う検査前にスクリーニング検査を実施するなど、院内のCOVID-19対策本部を中心に感染防止対策を徹底して講じた上で、コロナ患者を受け入れた。 特に令和4年7月から9月までのコロナ第7波においては、福岡市の要請の下、急増した小児の感染患者に対する休日診療を実施するとともに、急性脳症や発熱に伴うけいれんなど重症度の高い救急搬送患者を積極的に受け入れるなど、コロナに係る小児救急医療を提供した。 ○ 国や県と備蓄在庫の情報を共有し、N95マスク等のPPE（個人用防護具）や消毒液等の必要在庫の確保に努めるとともに、感染症拡大時の陰圧室の不足に備え、簡易陰圧装置1台を導入するなど、コロナ及び新興感染症等の感染拡大時における小児感染症医療の提供体制を整備した。	2	4	5	○ 新たに指定された県の重点医療機関として、小児へのコロナの対応を積極的に行った。また、簡易陰圧装置の導入やBCP（事業継続計画）の見直し等に取り組むとともに、広域災害時の相互支援体制強化にも努めた。 ○ コロナのいわゆる第7波に際しては、急増する小児患者について、市の要請も踏まえ、休日診療体制を整備するなどして積極的に対応し、また、重症度の高い患者の受入れにも積極的に対応し多くの救急搬送患者を受け入れるなど、市立病院としての役割を果たしたことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。

中期計画				年度計画																							
【目標値】 <table><tr><th>指標</th><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>訓練開催数 (回)</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td>災害時参集訓練 参加率(%)</td><td>—</td><td>—</td><td>90</td></tr></table>				指標	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	訓練開催数 (回)	3	4	5	災害時参集訓練 参加率(%)	—	—	90	【目標値】 <table><tr><th>指標</th><th>令和2年度 実績値</th><th>令和4年度 目標値</th></tr><tr><td>訓練開催数(回)</td><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td>災害時参集訓練参 加率(%)</td><td>—</td><td>90</td></tr></table>			指標	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値	訓練開催数(回)	4	5	災害時参集訓練参 加率(%)	—	90
				指標	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																				
				訓練開催数 (回)	3	4	5																				
				災害時参集訓練 参加率(%)	—	—	90																				
指標	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値																									
訓練開催数(回)	4	5																									
災害時参集訓練参 加率(%)	—	90																									

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価										
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど									
○ J A C H R I（日本小児総合医療施設協議会）の会員施設間で組織された「広域災害時の相互支援システム」における九州地区の幹事施設として、同協議会の災害対策委員会に参加し、災害発生時に関係医療機関の被害状況が確認できる災害用掲示板の構築を進めるとともに、全国自治体病院協議会が設置した「災害時医療機関相互支援ネットワーク」の参加施設として、災害発生時における関係機関との相互支援体制を整えた。 【実績値】 <table><tr><th>指標</th><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>訓練開催数（回）</td><td>6</td><td>5</td></tr><tr><td>災害時参集訓練参加率（％）</td><td>92.1</td><td>98.4</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ 大規模災害発生を想定した初動訓練の実施やP P E（個人用防護具）等の必要在庫の確保、感染症拡大時の陰圧室の不足に備えた簡易陰圧装置の導入など、災害時に備え事業を継続するために必要な取組を確実に行った。 また、重点医療機関として、急増した小児の感染患者に対する休日診療を実施するとともに、重症度の高い救急搬送患者を積極的に受け入れるなど、コロナに係る小児救急医療を提供したことから、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。	指標	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	訓練開催数（回）	6	5	災害時参集訓練参加率（％）	92.1	98.4				
指標	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値											
訓練開催数（回）	6	5											
災害時参集訓練参加率（％）	92.1	98.4											

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (3) 災害・感染症等への適切な対応
中期計画	年度計画
(3) 災害・感染症等への適切な対応 災害・感染症等の発生時やその他の緊急時においては、福岡市及び関係機関との連携の下、迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たすとともに、他の自治体等において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、患者受入れや医療従事者の派遣など、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努める。 また、防災マニュアルやBCP（事業継続計画）の定期的な見直しを行うとともに、訓練や備蓄等、災害対応に備えた万全な体制を維持する。 イ 福岡市民病院 災害発生時やその他の緊急時においては、必要な医療の継続及び救護活動を実施するとともに、感染症発生時においては、感染症指定医療機関として、他の医療機関等との連携を図りながら、福岡市における対策の先導的かつ中核的な役割を果たす。	(3) 災害・感染症等への適切な対応 ○ 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内のBCP（事業継続計画）等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えるとともに、防災マニュアルの周知や防災訓練の実施等を通じ、職員の防災意識を高める。 ○ 防災マニュアルやBCP（事業継続計画）の定期的な見直しを行うとともに、非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底して行い、災害発生時の万全な対応に備える。 イ 福岡市民病院 ○ 他の自治体において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなど、的確に医療救護活動の支援に努める。 ○ 新型コロナウイルス感染症対応については、「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、引き続き福岡市の中核的な役割を果たすとともに、当院における新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、感染症に関する知見や感染対策への取組等について地域の医療従事者への情報提供を行うことなどを目的として、「（仮称）感染対策情報発信センター（ICIC：Infection Control Information Center）」を設置する。 ○ 新型コロナウイルス感染症に対応した経験を踏まえ、感染症に係るBCP（事業継続計画）を見直すとともに、今後の新興感染症発生時においては、感染症指定医療機関として、他の医療機関等との連携を図りながら、いち早く体制を整備し福岡市における対策の先導的かつ中核的な役割を果たす。

中期目標(内容)	災害・感染症等の発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。 また、他の自治体において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、関係機関や災害協定に基づく医療機関等との連携を図るなど、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努めること。 イ 福岡市民病院 必要な医療の継続及び救護活動を実施するとともに、感染症発生時においては、感染症指定医療機関として福岡市における対策の先導的かつ中核的役割を果たすため、必要な対応を図ること。			
	業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)		自己評価	市長の評価
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院	2	4	5	○ コロナへの対応については、引き続き県の重点医療機関として、中等症以上の患者を中心に積極的に受入れを行い中核的な役割を果たした。 また、災害発生を想定した対応については、コロナ対応を踏まえたBCP（事業継続計画）等の見直しや、訓練や防災設備・備蓄物品の点検などを着実に実施している。 ○ 目標値は全ての項目で達成したほか、前年に引き続きJMAT（日本医師会災害医療チーム）活動や市が実施する転院支援事業に積極的に取り組んだことに加え、感染症対策としてICIC（感染対策情報発信センター）による情報提供や、関係機関との合同での感染対策訓練の実施、院内クラスターが発生した地域の医療機関への指導助言など、地域全体での感染症対策の質向上に向けて取り組んだことを積極的に評価し、年度計画を大幅に上回って実施していると判断されるため、「評価5」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指標	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	指標	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
訓練開催数 (回)	6	4	6	訓練開催数 (回)	3	5
災害時参集訓練 参加率 (%)	—	—	90	災害時参集訓練参 加率 (%)	—	90

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価										
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど									
ドを実施し、問題点等に関する助言等を行うとともに、ゾーニングやP P E（個人用防護具）着脱、手指消毒等の感染対策に係る指導等を行った。 軽症患者が爆発的に増加する中、入院時のスクリーニングでは陽性であることが抽出困難な事例も頻出し、令和4年度には院内クラスターが4回発生したが、迅速な入院調整や検査の実施などを行い、感染を拡大させることなく、いずれも短期間で解除することができた。 令和5年5月からの5類移行に向けて、院内に「5類対応ワーキングチーム」を設置し、情報収集・共有を行うとともに、想定される患者対応や運用に係る見直し、感染対策等に関する検討、準備を行った。 ○ コロナ対応の経験を踏まえ、随時、感染症に係るB C P（事業継続計画）や院内の対応手順、マニュアル等の見直しを行い、今後の新興感染症発生時に有効活用できるよう準備を進めた。 【実績値】 <table><tr><th>指標</th><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>訓練開催数（回）</td><td>3</td><td>5</td></tr><tr><td>災害時参集訓練参加率（％）</td><td>96.0</td><td>98.3</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コロナ対応については、引き続き重点医療機関として福岡市における中核的な役割を果たすとともに、4月に設置した「感染対策情報発信センター」における情報発信や合同訓練を実施したほか、院内クラスターが発生した地域の医療機関に出向いて、感染対策等に係る助言指導を行った。また、目標値も全て達成しており、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。	指標	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	訓練開催数（回）	3	5	災害時参集訓練参加率（％）	96.0	98.3				
指標	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値											
訓練開催数（回）	3	5											
災害時参集訓練参加率（％）	96.0	98.3											

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
	2 患者サービス (1) 患者サービスの向上

中期計画	年度計画
(1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者及び家族の多様なニーズを的確に捉えた上で、ボランティアなどとの連携を図るとともに、I C T（情報通信技術）の積極的な活用等により、効率的かつ効果的な患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。	(1) 患者サービスの向上 ア 福岡市立こども病院 ① 退院時アンケート等やホームページによる患者・家族からの意見等を踏まえ、コロナ禍においても可能な限り、ボランティアとの共働を推進するとともに、I C T（情報通信技術）を活用し、患者及び家族の利便性の向上を図る。 ② 患者家族の医療等の相談について、相談支援窓口において適切に対応する。 ③ 院内の接遇・療養環境委員会を中心に、関係部署とも協議しながら、院内環境を整備するとともに、福岡市が推進する「一人一花運動」の趣旨に沿って、花壇等の管理を適切に行い、患者・家族の療養環境改善を図る。

【目標値】			
指標	福岡市立こども病院		
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値
退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.0	89.0	89.0

※ 対象者・・・入院患者			
※ 評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等			

【目標値】		
指標	福岡市立こども病院	
	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.2	89.0

※ 対象者・・・入院患者		
※ 評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等		

中期目標(内容)	選ばれる病院であり続けるため、ＩＣＴ（情報通信技術）の積極的な活用などにより、効率的かつ効果的なサービスの展開に努めるほか、ボランティア等との連携を図ることにより、多様な市民・患者一人ひとりの視点に立った患者サービスの向上に努めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
ア 福岡市立こども病院 ① コロナ禍により、引き続き院内でのボランティア活動に制限がある中で、マリンワールドとの共同による「オンライン水族館」や福岡県内の企業からの提案による「スーパー耐久レースのリモート観戦イベント」を開催するとともに、一人入院の患者等を対象としたリモート保育を試行するなど、可能な限り患者サービスの向上に努めた。 O F C (アレルギー食物負荷試験) 退院後の初回外来診療及び栄養指導をオンラインで実施するとともに、福岡市立こども病院の L I N E 公式アカウントからの各種外来予約 (初診・再診・予約変更・予約照会) の本格運用を開始し、患者及び患者家族の利便性の向上を図った (令和 5 年 3 月末時点 L I N E 登録者数 25,344 人)。 ② 医療・福祉・療育に関する相談や在宅療養生活への支援、転医・転院等に関する相談について、相談支援窓口において、適宜適切な対応を行った。 ③ 退院時アンケートによる意見や要望等を踏まえ、H C U (高度治療室) 等への無料 W i - F i の増設やリモート面会用のタブレット機器の整備、授乳室の改修など院内環境の整備を行い、施設利用者の利便性向上を図るとともに、福岡市が推進する「一人一花運動」の趣旨に沿って、1 年を通じて花が咲くよう季節ごとに花の植替えを行い、花壇を充実させ、療養環境改善を図った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和 3 年度 実績値</th><th>令和 4 年度 実績値</th></tr><tr><td>退院時アンケート の平均評価点数 (100 点満点)</td><td>89.8</td><td>89.4</td></tr></table> ※ 対象者・・・入院患者 ※ 評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等	指標	福岡市立こども病院		令和 3 年度 実績値	令和 4 年度 実績値	退院時アンケート の平均評価点数 (100 点満点)	89.8	89.4	2	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、リモート保育の試行やリモート面会環境の整備など、退院時アンケートの要望等を踏まえ、I C T (情報通信技術) を活用する等して患者及び患者家族等の利便性向上に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価 3」とする。
指標		福岡市立こども病院										
	令和 3 年度 実績値	令和 4 年度 実績値										
退院時アンケート の平均評価点数 (100 点満点)	89.8	89.4										

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ オンライン診療の実施や外来予約システムの本格運用など、ＩＣＴ（情報通信技術）の活用による患者及び患者家族の利便性の向上に取り組むとともに、退院時アンケートの意見等を踏まえ院内環境を整備するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「３」とする。				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
	2 患者サービス (1) 患者サービスの向上

中期計画	年度計画
(1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者及び家族の多様なニーズを的確に捉えた上で、ボランティアなどとの連携を図るとともに、I C T（情報通信技術）の積極的な活用等により、効率的かつ効果的な患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。	(1) 患者サービスの向上 イ 福岡市民病院 ① 職員の接遇及び療養環境等に関する患者満足度調査や外来待ち時間調査、入院患者への食事アンケート等を引き続き実施し、患者のニーズを的確に把握して改善を図るとともに、全館への患者用フリーW i - F i の導入や、総合案内へのロボットの導入により患者サービスの向上及び職員の負担軽減を図るなど、I C T（情報通信技術）の積極的な活用について検討する。 ② 患者・家族等からの医療・福祉に関する相談等について、患者サポート相談窓口を中心に適切に対応する。 ③ トイレ等の水回りの衛生設備の段階的な改修を行うなど、療養環境改善に努める。

【目標値】			
指標	福岡市民病院		
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	89.6	89.8	89.8

※ 対象者・・・入院患者		
※ 評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等		

【目標値】		
指標	福岡市民病院	
	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.3	89.8

※ 対象者・・・入院患者	
※ 評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等	

中期目標(内容)	選ばれる病院であり続けるため、ＩＣＴ（情報通信技術）の積極的な活用などにより、効率的かつ効果的なサービスの展開に努めるほか、ボランティア等との連携を図ることにより、多様な市民・患者一人ひとりの視点に立った患者サービスの向上に努めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
イ 福岡市民病院 ① 患者満足度調査を毎月実施し、患者のニーズを把握するとともに、職員の接遇に関する指摘等に対しては当該職員にフィードバックして指導を行うなど、改善を図った。 4月に病棟エリア、12月には外来エリアで患者用無料Wi-Fiを導入するなど、全館で無料Wi-Fiが使用可能な環境を整備し、施設利用者の利便性を向上させた。 令和3年度から試行を開始した総合案内への検温用・案内用ロボットについて、5月から本格稼働を開始し、患者サービスの向上及び職員の負担軽減を図った。 感染対策として発熱患者の待機スペースに転用していた外来患者用の休憩・食事スペースについて、10月から場所を移動して再開し、外来待ち時間における環境改善を図った。 令和5年度から稼働開始する予定の電子処方箋について、導入に向けた準備を進めた。 ② 患者及び患者家族等からの医療・福祉に関する相談等（4年度2,420件）について、患者サポート窓口が中心となり適切に対応した。 ③ 全館のトイレ等の水回り改修工事を9月から開始し、全34か所について予定どおり完了して、省エネや感染対策を考慮しながら、療養環境の大幅な改善とともに、介助時等における職員の負担軽減を図った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>90.1</td><td>90.5</td></tr></table> ※ 対象者・・・入院患者 ※ 評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等	指標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.1	90.5	2	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、全館で無料Wi-Fiが使用可能な環境を整備するなど患者及び患者家族等の利便性向上に取り組むとともに、患者の相談等について着実に対応していることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指標		福岡市民病院										
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値										
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	90.1	90.5										

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ ICT (情報通信技術) を活用した患者サービスを向上させるとともに、トイレ等の水回り改修工事を実施した療養環境の改善に取り組むなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (2) 情報発信
中期計画	年度計画
(2) 情報発信 ホームページ等の様々な媒体を活用して、病院の持つ機能や治療実績等、積極的な情報発信に取り組むとともに、安心して受診できるように、市民に開かれた病院づくりに努める。	(2) 情報発信 ア 福岡市立こども病院 ○ 診療内容、医療サービスや、「病院指標（独自指標を含む）」に示される治療実績等について、広報誌やホームページ等を活用して分かりやすい情報発信に取り組み、患者が安心して受診できるよう、市民に開かれた病院づくりに努める。 ○ ホームページに子どもを対象としたコンテンツを設け、子どもの年齢・発達や理解度に合わせた情報提供に取り組むとともに、外来デジタルサイネージ及びSNS（ソーシャルネットワークサービス）を活用した積極的な情報発信に取り組む。 地域の子育て世代や、元気な高齢者を対象に、多世代の交流や医療を通じて子育て・孫育てを実現することを目的に、C G G (Child Grandchild Good-Care) プログラムを引き続き実施する。

中期目標(内容)	ホームページや広報誌等により、病院の役割や医療内容等を積極的に情報発信するなど、市民・患者に開かれた病院づくりに努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 登録医宛てにニュースレターを送付し、当院の取組や研修会等の案内を行うとともに、「病院指標」をホームページに公開し、一般の人にも分かりやすい解説を行った。 また、患者用クリニカルパスの更なる充実を図り、当該クリニカルパスの公開による治療内容の可視化を実施した(公開パス数: 4年度14疾患、3年度15疾患)。 ○ 患者及び患者家族並びに医療関係者等にとって見やすく、情報が探しやすいホームページとなるよう、ホームページの全面的なリニューアルを行い4月に公開し、さらに、8月には子どもたち向けの病院紹介やプレパレーション動画を掲載した「こどものページ」を追加で公開した。 ○ 福岡市立こども病院のLINE公式アカウントのトーク画面を患者及び患者家族向けの情報発信ツールとしても利用するなど、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を活用して、院内イベント及び病院のコロナ対策等に係る情報発信を行った。 また、地域住民を対象に、育児への関心を高めるための取組として、コロナ対策を講じた上で、地域の公民館と共同で、「こども病院生涯学習講座CGG(Child Grandchild Good-Care)」を11月に開催し、参加者から好評を得た(テーマ:「小児救急の現場から」、参加者: 14組30人)。 同じく11月には、福岡市総合体育館で開催されたアイランドシティフェスティバルに参加して、病院のドクターカーを展示し車載搭載機器の説明をするなど情報発信を行った(参加者: 107組303人)。	1	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、ホームページのリニューアルや「こどものページ」等の公開、SNS(ソーシャルネットワークサービス)を活用する等して、積極的な情報発信に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指標	福岡市立こども病院			指標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
病院ホームページ のアクセス数（件）	377,866	400,000	400,000	病院ホームページ のアクセス数（件）	407,402	400,000
広報誌発行 回数（回）	3	4	4	広報誌発行回数 （回）	5	4

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指標	福岡市立こども病院					
	令和３年度 実績値	令和４年度 実績値				
病院ホームページ のアクセス数（件）	395,980	425,524				
広 報 誌 発 行 回 数 (回)	4	4				
【自己評価の判断理由】 ○ 広報誌やホームページ等を活用した情報発信を継続するとともに、コロナ禍においても、感染対策を講じた上で、地域住民を対象とした講座を継続して開催するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「３」とする。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (2) 情報発信																										
中期計画	年度計画																										
(2) 情報発信 ホームページ等の様々な媒体を活用して、病院の持つ機能や治療実績等、積極的な情報発信に取り組むとともに、安心して受診できるように、市民に開かれた病院づくりに努める。	(2) 情報発信 イ 福岡市民病院 ○ ホームページや広報誌、オンラインイベントシステム等を活用して、病院の機能や役割を広く情報発信し、市民に開かれた病院づくりに努める。 ○ 地域住民の健康意識の底上げを行うため、地域のニーズをいち早く把握して、出前講座による草の根活動に取り組む。																										
【目標値】	【目標値】																										
<table><tr><td rowspan="2">指標</td><td colspan="3">福岡市民病院</td></tr><tr><td>令和元年度 実績値</td><td>令和2年度 見込値</td><td>令和6年度 目標値</td></tr><tr><td>病院ホームページのアクセス数 (件)</td><td>180,889</td><td>191,138</td><td>192,500</td></tr><tr><td>広報誌発行回数 (回)</td><td>4</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	指標	福岡市民病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	病院ホームページのアクセス数 (件)	180,889	191,138	192,500	広報誌発行回数 (回)	4	3	4	<table><tr><td rowspan="2">指標</td><td colspan="2">福岡市民病院</td></tr><tr><td>令和2年度 実績値</td><td>令和4年度 目標値</td></tr><tr><td>病院ホームページのアクセス数 (件)</td><td>175,731</td><td>191,500</td></tr><tr><td>広報誌発行回数 (回)</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値	病院ホームページのアクセス数 (件)	175,731	191,500	広報誌発行回数 (回)	3	4
指標		福岡市民病院																									
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																								
病院ホームページのアクセス数 (件)	180,889	191,138	192,500																								
広報誌発行回数 (回)	4	3	4																								
指標	福岡市民病院																										
	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値																									
病院ホームページのアクセス数 (件)	175,731	191,500																									
広報誌発行回数 (回)	3	4																									

中期目標(内容)	ホームページや広報誌等により、病院の役割や医療内容等を積極的に情報発信するなど、市民・患者に開かれた病院づくりに努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウ エ ィ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
イ 福岡市民病院 ○ ホームページを全面リニューアルするとともに、年4回の広報誌発行やオンラインイベントシステムを活用したWeb研修会等の開催等を通じて情報発信に取り組み、市民に開かれた病院づくりに取り組んだ。 ○ コロナ禍で制限はありながらも、地域住民の健康意識の向上と、地域に根差した情報発信を目的として出前講座を開催した（4年度15施設、延べ374人参加）。 また、福岡県看護協会の事業「看護の出前授業」や「ふれあい看護体験」に協力し、市内の中学生や高校生に対して、当院の看護師が講演を行った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>病院ホームページのアクセス数（件）</td><td>188,774</td><td>128,814</td></tr><tr><td>広報誌発行回数（回）</td><td>4</td><td>4</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ 病院ホームページのアクセス数は、ホームページの全面リニューアルを行った際に採用情報に係るページを機構本部のサイトに移動した影響を受け、目標値を下回った。一方で、広報誌の発行や出前講座の開催、中高生向け講演会への講師派遣など、コロナ禍で制限はありながらも可能な限りの取組を行っており、年度計画を順調に実施していることから、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	病院ホームページのアクセス数（件）	188,774	128,814	広報誌発行回数（回）	4	4	1	3	3	○ ホームページや広報誌等による情報発信に、着実に取り組んでいる。 ○ 病院ホームページのアクセス数で目標値を下回った。しかし、その要因は主にサイト構成の見直しによるものであり、移動したページ以外ではアクセス数に大幅な減少は見られなかったことや、出前講座の開催件数が過去最高となるなど、地域住民や中高生などに向け幅広く積極的な情報発信に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。 ○ なお、病院ホームページのアクセス数については、刷新に応じた適正な目標の設定及びその達成に努めるとともに、新たな取組についても、極力、指標を設定するなどして、実施状況の分析に資するよう努めること。
指標		福岡市民病院													
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値													
病院ホームページのアクセス数（件）	188,774	128,814													
広報誌発行回数（回）	4	4													

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 （1）病院スタッフの計画的な確保と教育・研修
中期計画	年度計画
(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 ① 収支への影響も踏まえながら、中長期的な医療環境の変化等を見据え、優れた知識と専門性を有する人材の計画的な確保に努める。 ② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 ア 福岡市立こども病院 ① 新型コロナウイルス感染症による収支への影響も踏まえながら、適正な人員配置及び優れた知識と専門性を有する人材の計画的な確保に努める。 意欲ある研修医等の確保を目的として、SNS（ソーシャルネットワークサービス）等を活用し、カンファレンスや研修会、教育プログラム等の情報発信に努める。 看護師については、意欲ある人材を確保するため、ICT（情報通信技術）を活用したオンライン就職説明会等を行うとともに、専従教育担当職員による看護職員等への研修を重点的に実施するなど、職員の資質向上に努める。 ② 新規採用職員を対象とした情報セキュリティ・人権・接遇等の研修を行うとともに、全職員を対象に医療の質向上に資する研修を行うほか、Web研修を積極的に活用するなど内容の充実及び受講促進に努め、職員の資質向上を図る。 ③ 看護師の専門性や能力の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促し、有資格者の拡大に努める。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医療環境の変化を見据え、中長期的な観点から、優れた知識と専門性を有する人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 初期研修医や医学部学生を対象とした「F u k u o k a C H O P P S (Children’s Hospital Practical Pediatric Seminar)」をW e bで開催し、意欲ある研修医等の確保に努めた(4年度3回開催、延べ73人参加、3年度3回開催、延べ84人参加)。 看護学生の実習受入れ(小児領域：11校14コース365人、母性領域：7校69人)を再開するとともに、看護学生等を対象とした「病院説明会・見学会」を5回(うちW e b 1回)開催し、延べ195人(3年度2回開催、延べ124人参加)の参加を得るなど、意欲ある人材の確保に努めた。 また、専従教育担当職員が中心となり、新人看護職員及び新任期看護職員等を対象とした研修を計画的に開催し、看護職員の資質向上に努めるとともに、他施設に従事する新人看護職員を対象にした小児看護研修をW e bで2回開催し、延べ103人(3年度2回開催、延べ132人)の参加を得るなど、小児専門病院としての役割遂行に努めた。 ② 新規採用職員や新任期看護職員を対象とした情報セキュリティ・人権・医療接遇等の研修を行うとともに、チーム医療として職員それぞれが最も良いパフォーマンスを発揮し、成果の上がりやすい職場の実現を目的として、全職員を対象に「心理的安全性」に係る研修を行った。 また、W e b研修を積極的に活用するなど内容の充実を図り、受講促進に努め、職員の資質向上を図った。 ③ 専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促進した。 【当該支援制度による資格取得者】 認定看護師(5分野) 6人 認定看護管理者ファーストレベル 3人 セカンドレベル 4人 サードレベル 4人 (令和5年3月現在)	2	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、W e bを活用した説明会等による意欲ある人材の確保や、職員向け研修の拡充など、人材育成に積極的に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】 (単位：％)				【目標値】 (単位：％)		
指標	福岡市立こども病院			指標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
医療の質向上 研修受講率	—	—	90	医療の質向上 研修受講率	—	90

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価									
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
【実績値】 (単位:%) <table><tr><td rowspan="2">指標</td><td colspan="2">福岡市立こども病院</td></tr><tr><td>令和3年度 実績値</td><td>令和4年度 実績値</td></tr><tr><td>医療の質向上 研修受講率</td><td>92.7</td><td>95.3</td></tr></table>			指標	福岡市立こども病院		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	医療の質向上 研修受講率	92.7	95.3				
指標	福岡市立こども病院													
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値												
医療の質向上 研修受講率	92.7	95.3												
【自己評価の判断理由】 ○ 看護学生の実習受入れや病院説明会を開催する等、意欲ある人材確保に向けた取組を実施するとともに、新人看護職員等への計画的な研修の実施、他施設に従事する新人看護職員を対象とした研修の開催等、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。														

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修
中期計画	年度計画
(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 ① 収支への影響も踏まえながら、中長期的な医療環境の変化等を見据え、優れた知識と専門性を有する人材の計画的な確保に努める。 ② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 イ 福岡市民病院 ① 医師、看護師を始め職種ごとに、医業収益に見合った定数管理を確実に実行することで、職員の適正数の確保に努める。 I C T（情報通信技術）の活用等による業務の効率化を推進するなど、ワーク・ライフ・バランスの推進に継続的に取り組み、年次有給休暇の取得率の向上や時間外勤務の縮減に努め、職員が働きやすい職場環境づくりを推進するとともに、優れた人材の確保に努める。また、ダイバーシティ推進の一環として、特別支援学校から実習生を受け入れるなど地域との提携強化に取り組む。 ② 新規採用職員を対象とした情報セキュリティや人権、接遇研修のほか、全職員を対象とした医療の質向上に資する研修等を実施するなど、院内研修の充実を図るとともに、外部の専門研修等も活用しながら職員の資質向上を図る。 ③ 看護部においては、認定看護師等資格取得支援制度を活用した積極的な資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、看護部以外の部門においても、専門職としての知識・技術の向上を図るため、資格取得支援制度の充実に努めるとともに、タスクシェアリングやタスクシフティングに向けた職員の資質向上に積極的に取り組む。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医療環境の変化を見据え、中長期的な観点から、優れた知識と専門性を有する人材の確保に努めること。				
	また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。				
業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)		自己評価		市長の評価	
		ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院		2	3	4	○ 人材確保については、コロナ対策を行った上で看護学校実習生の受入れ等を行った。また、専門性や医療技術の向上については、資格取得や研修受講の促進などを着実に実施している。 ○ 医療の質向上研修受講率はWeb研修を活用するなど実施方法を工夫した結果100%に達しており、また、人材確保の観点からも職場環境づくりに取り組んだ結果、看護師の離職率が県内の離職率の平均値や全国公立病院の離職率の平均値より低い値で推移しているなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
① 看護師について7対1看護基準を維持しながら、コロナ対応への応援のために稼働が逼迫する一般病棟等のマンパワー確保のため、派遣会社を活用して看護師を確保するなど、看護職員の負担軽減を図るとともに、職員の育児休業等による欠員に対して、代替職員の配置を適宜行うなど職種ごとの定数管理を確実に行った。					
また、意欲ある人材を確保するため、感染予防対策を十分に行った上で、看護学校実習生を180人（延べ1,514人）受け入れた。 医師の働き方改革に対応するため、A水準の取得に向けて副院長をリーダーとした働き方改革コアメンバー会議にて適正な労働時間管理を実施するとともに、院内のワーク・ライフ・バランス推進委員会において、引き続き、年次有給休暇の取得率向上に向けた周知活動に取り組んだほか、感染対策の強化に伴い職員の休憩スペースとして、宿舍の3室を確保するなど、職員が長く働き続けられる職場環境づくりを推進した（看護職員離職率：4年度7.2%、3年度7.6%）。 ② 感染予防対策を十分に行った上での集合研修や、オンラインイベントシステムを活用したWeb研修や勉強会等を院内で適宜開催するとともに、職員へ外部研修の積極的な参加を促進するなど、職員の資質向上に取り組んだ。 ③ 専門職としての知識や技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度を活用するとともに、職務に必要な資格取得や研修受講等を積極的に促進した。当院で開講する特定行為研修についても、2人（栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）の受講が修了した。 また、「タスクシフト・タスクシェアワーキングチーム」を発足させ、看護師を始めとした多職種17人に対し、資格取得やスキルアップ支援を行い、タスクシフト及びタスクシェアの推進を図った。					

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
【主な新規資格取得者】 (医師) ・脳血管回収療法認定医 1人 ・日本心血管インターベンション治療学会九州地方会Y I A最優秀賞 1人 ほか、各種資格取得者 2人 (看護部) ・特定行為研修（1区分2行為） 3人 （2区分3行為） 1人 ・認定看護管理者 1人 ・福岡糖尿病療養指導士 2人 ・福岡県肝炎医療コーディネーター研修修了 2人 ・両立支援コーディネーター 6人 ・日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡技師 2人 ・入院時重症患者対応メディエーター 1人 ほか、各種資格取得者59人 (医療技術職、事務等) ・日本病院薬剤師会 病院薬学認定 1人 ・脳卒中認定理学療法士 3人 学会呼吸療法認定士 1人 ・透析認定士 1人 ほか、各種資格取得者 7人 【認定看護師等資格取得支援制度による資格取得者数】 専門看護師 1人 認定看護師18人（11分野） 認定看護管理者 2人 特定行為研修修了者 13人 （令和5年3月末現在） 【実績値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>医療の質向上 研修受講率</td><td>96.0</td><td>100</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ 目標値を達成するとともに、派遣会社の活用やワーク・ライフ・バランス推進の取組等を継続して行った。また、意欲ある人材を確保するため、感染対策を講じた上で実習生の受入れを継続したほか、職員向け研修会等の開催、資格取得の推進など、年度計画を着実に実施したことから、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	医療の質向上 研修受講率	96.0	100				
指標		福岡市民病院										
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値										
医療の質向上 研修受講率	96.0	100										

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
中期計画	年度計画
(2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心に医療安全に関する情報の収集・分析及び院内研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 医療の質の確保・向上のため、第三者機関による外部評価等を活用するとともに、チーム医療の実践や多職種による患者指導の充実など、安全・安心な医療を提供する。	(2) 信頼される医療の実践 ア 福岡市立こども病院 ① 感染対策室、院内感染対策委員会及びICT（感染制御チーム）の連携により、院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心とした Team STEPPS®（Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety）の推進によるリスクマネジメントや、医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 新型コロナウイルス感染症に対応するため、引き続きCOVID-19対策本部を中心とした、組織横断的な協力体制を維持するとともに、ロボット等の導入によるCOVID-19対策の効率化を図る。 ② クリニカルパスの充実により、ケアの標準化、均質化を図り、医療の質の向上に努めるとともに、その活用による治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセントやインフォームド・アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 令和3年5月に認定を受けた病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組むとともに、多職種によるチーム医療及び患者指導の充実を図り、安全・安心な医療を提供する。 薬剤師によるTPN（中心静脈栄養輸液）無菌調製を全病棟で実施するとともに、臨床工学技士による人工呼吸器・医療ガス管理体制を強化し、安全性の向上及び看護師の負担軽減を図る。

中期目標(内容)	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。				
	また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。				

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① コロナの感染拡大に際しては、引き続き、院内のCOVID-19対策本部を中心に感染防止対策を講じ、組織横断的な協力体制の下、的確なコロナ対応を行った。 専従の感染管理認定看護師を配置した感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携を推進するとともに、地域の医療機関とのカンファレンスを4回、相互訪問ラウンドを2回実施するなど、感染防止対策の強化を図った。 また、医療安全管理室によるリスクマネジメントや医療従事者への教育を目的としたTeam STEPPS® (Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety) 推進の研修会を開催（4年度7テーマ、3年度5テーマ）し、医療安全対策の強化を図った。 ② 職員向けクリニカルパス勉強会を1回（3年度1回）開催し、クリニカルパス委員会を中心とした普及・啓発活動を行った結果、クリニカルパスの数が増加した（4年度57種類、60疾患、3年度52種類、58疾患）。退院患者の39.9%（3年度41.9%）に使用され、ケアの標準化、均質化が図られた結果、医療の質が向上した。 ③ 診療録の記載内容に係る改善活動として、院内のケアプロセス形式監査を2回実施するなど、令和3年5月に認定を受けた病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組んだ。 令和3年度までは集中治療系病棟のみで行っていた薬剤師によるTPN（中心静脈栄養輸液）無菌調製を、一般病棟に拡大して実施するとともに、臨床工学技士による一般病棟の人工呼吸器ラウンド及び在宅人工呼吸器装着患児の入院時機器点検など、人工呼吸器の管理体制の強化に取り組み、安全性の向上及び医師・看護師の負担軽減を図った。	2	3	3	○ 院内外の連携による感染防止対策の強化や薬剤師によるTPN（中心静脈栄養輸液）無菌調製の対象の拡充による安全・安心な医療の提供に、着実に取り組んでいる。 ○ 薬剤師不足により薬剤管理指導件数で目標値を下回った。しかし、その他の指標については目標値を達成しており、また、クリニカルパスを活用した治療内容の可視化等患者中心の医療の実践に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。 ○ なお、人材確保は病院運営にとって重要であり、人員の不足にあたっては迅速に対応し必要な人材を確保するよう努めること。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指標	福岡市立こども病院			指標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
医療安全等の研修開催数（回）	57	50	50	医療安全等の研修開催数（回）	42	35
薬剤管理指導件数（件）	4,929	3,580	5,000	薬剤管理指導件数（件）	4,904	5,200
栄養食事指導・相談件数（件）	1,412	1,200	1,300	栄養食事指導・相談件数（件）	1,332	1,400

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指標	福岡市立こども病院					
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値				
医療安全等の研修 開催数(回)	47	38				
薬剤管理指導件数 (件)	5,407	4,342				
栄養食事指導・相 談件数(件)	1,414	1,501				
【自己評価の判断理由】						
○ 薬剤管理指導件数については、薬剤師の必要人数を確保できず、目標を大きく下回ったが、感染防止対策の強化やTeam STEP S[®]研修会の開催による医療安全対策の強化など、安全・安心な医療の提供に積極的に取り組んだ。 また、病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組むとともに、薬剤師によるTPN無菌調製の拡大実施や臨床工学技士による人工呼吸器の管理体制の強化などを行っており、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。						

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
中期計画	年度計画
(2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心に医療安全に関する情報の収集・分析及び院内研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 医療の質の確保・向上のため、第三者機関による外部評価等を活用するとともに、チーム医療の実践や多職種による患者指導の充実など、安全・安心な医療を提供する。	(2) 信頼される医療の実践 イ 福岡市民病院 ① 新型コロナウイルス感染症対策における経験を踏まえたBCP（事業継続計画）の見直し等による院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心とした教育研修の実施や、他施設との医療安全相互チェックを継続するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② 医療の質の向上を目的としたクリニカルパスを積極的に活用し、より分かりやすいインフォームド・コンセントの徹底やホームページへの公開による治療内容の可視化等、患者中心の医療を実践する。 ③ 医師を始めとした多職種によるチーム医療の推進や患者指導の充実を図るなど、安全・安心な医療を提供する。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指標	福岡市民病院			指標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
医療安全等の研修開催数（回）	26	16	28	医療安全等の研修開催数（回）	16	26
薬剤管理指導件数（件）	9,588	7,612	9,000	薬剤管理指導件数（件）	7,982	8,000
栄養食事指導・相談件数（件）	1,144	806	1,098	栄養食事指導・相談件数（件）	882	900
がん患者指導件数（件）	8	24	30	がん患者指導件数（件）	127	80

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																		
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																	
● 医師の監督下において、手順書に準じた看護師の特定行為「気管カニューレ交換」を34件実施し、タスクシフトやタスクシェアを推進するとともに、患者の安全性を確保しつつQOL (Quality of life) の向上を図った。なお、この手順書は院内の特定行為研修管理委員会で承認され、令和5年度から本格実施することとなった。 ● 九州大学病院とのコロナに係る共同研究として、ワクチン接種に関する臨床研究の論文が海外の学術誌「Open Forum Infectious Diseases」「Vaccine:X」にそれぞれ掲載されるとともに、当院の薬剤部が中心となって実施したワクチンに関する臨床研究の論文が「感染症学雑誌」に掲載された。 ● 抗菌薬の適正使用を推進することを目的として、経口抗菌薬が処方される頻度が高い疾患に係る適正使用支援とその効果を評価する臨床研究に、薬剤部を中心に取り組み、その研究成果について学会発表を行った。また、日本医療薬学会発行の学術誌「医療薬学」に同研究に関する論文が掲載された。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>医療安全等の研修 開催数 (回)</td><td>25</td><td>26</td></tr><tr><td>薬剤管理指導件数 (件)</td><td>7,231</td><td>5,925</td></tr><tr><td>栄養食事指導・相 談件数 (件)</td><td>763</td><td>1,001</td></tr><tr><td>がん患者指導件数 (件)</td><td>72</td><td>84</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ 目標値については、コロナの影響や診療報酬改定への対応による患者数の減少に伴い、薬剤管理指導件数が下回ったものの、医療安全文化調査に基づく改善活動を継続して行ったほか、看護師の特定行為を医師の監督下において実施し、またワクチン関連の臨床研究結果を論文にまとめ、それが学術誌に掲載されるなど、医療の質向上に寄与する活動を継続して実施し一定の成果を得たことから、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	医療安全等の研修 開催数 (回)	25	26	薬剤管理指導件数 (件)	7,231	5,925	栄養食事指導・相 談件数 (件)	763	1,001	がん患者指導件数 (件)	72	84				
指標		福岡市民病院																			
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値																			
医療安全等の研修 開催数 (回)	25	26																			
薬剤管理指導件数 (件)	7,231	5,925																			
栄養食事指導・相 談件数 (件)	763	1,001																			
がん患者指導件数 (件)	72	84																			

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実
中期計画	年度計画
① 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ② 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。	① 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ② 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。 情報システムの管理やセキュリティの強化、D X（Digital Transformation）の推進等について、機構全体で一体的にマネジメントするための体制の構築を図る。 福岡市立こども病院においては、S a T（戦略的分析チーム）による定期的なプレゼンテーションを通じて、病院運営や経営改善に資する提案を行っていく。また、D X（Digital Transformation）については、ワーキングチームを中心としたデータサイエンス勉強会の開催やグループウェア等の活用による業務改善を推進する。

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 2 事務部門の機能強化
中期計画	年度計画
① 経営状況や医療を取り巻く情報を整理・分析する能力など、事務部門に求められる専門性を更に高めていくため、研修の充実を図るとともに、スキルアップを支援するための制度の導入を検討する。 ② 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、情報共有の徹底やO J T（On the Job Training）の充実を図るとともに、人材育成プランを基に、職員のキャリアプランを踏まえた人事異動を通して、事務部門の更なる機能強化に努める。	① 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、事務のマニュアル化や業務の可視化等に努めるとともに、I C T（情報通信技術）の更なる活用を図り、情報共有や業務の効率化を推進する。 ② 事務部門に求められる専門性を更に高めていくため、研修の充実を図るとともに、テーマごとの職場内研修等の実施により、効果的なO J T（On the Job Training）に繋げる。また、職員一人ひとりのI T（情報技術）リテラシーの向上を図る。 職員のキャリアプランを踏まえた適材適所の人事配置に努める。

中期目標(内容)	各病院の経営支援を的確に行うことができる人材や、医療を巡る環境変化に柔軟に対応できる人材を育成するため、その専門的知識やスキルを習得するための研修を計画的に実施するとともに、市立病院としてのノウハウを確実に蓄積し、事務部門の更なる機能強化に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、運営本部及び両病院の経理担当者会議等を行うとともに、人事評価システムを医師以外の全職員に導入し、事務の簡素化や効率化等に努めた。 ② マネジメント能力やチームをまとめる能力の向上等を目的として、係長級及び主任級への昇任者を対象に、研修を実施した（受講人数17人）。 事務部門全体の機能強化及び職員のキャリアプランを踏まえ、運営本部及び両病院間における人事異動を実施した。 医療接遇研修や診療報酬管理研修等を実施するとともに、福岡市立こども病院の中堅職員1人を一般社団法人日本病院会が開催する「病院中堅職員育成研修：経営管理コース」に参加させるなど、事務職員の能力向上に努めた。 【自己評価の判断理由】 ○ 担当者会議や研修等を実施するとともに、事務の簡素化・効率化等を推進するなど年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。	1	3	3	○ 担当者会議等で専門的知識の共有や蓄積を図っており、また、人事異動の実施や内外の研修等の活用による職員の能力向上に取り組むことで、事務部門の更なる機能強化に努めるなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 働きがいのある職場環境づくり
中期計画	年度計画
① 職員ニーズ等を踏まえ、福利厚生の更なる充実に取り組むとともに、育児・介護等の支援制度の利用促進や組織全体の意識改革を図り、柔軟で働きやすい職場環境の整備に努める。 ② 国の働き方改革の考え方を踏まえ、人員配置や業務の見直し等、職員の業務負担の軽減に努めるとともに、時間外勤務の適正化や年次有給休暇を取得しやすい職場環境を整備し、ワーク・ライフ・バランスの確保及び職員の健康保持に取り組む。 ③ 職員のモチベーションの維持・向上を図るため、人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、社会情勢の変化等に適合しつつ、職員の意欲を引き出すよう、人事・給与制度について、適宜、見直しを行う。	① 職員が安心して働き続けることができるよう、福利厚生の更なる充実に取り組むとともに、育児・介護等の支援制度の周知徹底はもとより、研修や会議等を通じて、所属長を始め職員の意識改革を図る。 ② 医師の働き方改革に向けて、人員配置や業務の見直し等を行い、職員の業務負担の軽減に努めるとともに、時間外勤務の適正化や年次有給休暇を取得しやすい職場環境を整備し、ワーク・ライフ・バランスの確保及び職員の健康保持に取り組む。 「心の健康づくり計画」に基づき、メンタルヘルス対策に積極的に取り組み、心身ともに健康で働きやすい環境づくりを推進する。特に、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、引き続き職員のメンタルサポートに努める。 ハラスメント防止に向けた意識醸成を図るため、全職員を対象とした研修会を開催する。 ③ 職員のモチベーション向上を図る観点から、医師や管理職を対象とした人事評価制度については、引き続き実施するとともに、社会情勢の変化等を踏まえた人事・給与制度の改善に取り組む。

中期計画				年度計画		
【目標値】 (単位：％)				【目標値】 (単位：％)		
指標	市立病院機構全体			指標	市立病院機構全体	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
新採・転入職員とのメンタルヘルス面談実施率	—	—	90	新採・転入職員とのメンタルヘルス面談実施率	—	90

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】(単位：％)						
指標	市立病院機構全体					
	令和３年度 実績値	令和４年度 実績値				
新採・転入職員との メンタルヘルス面 談実施率	76.8	97.3				
【自己評価の判断理由】 ○ 育児に係る支援制度の新設や、コロナに対 応した給与制度等を継続して整備するととも に、両病院において各職種のタスクシフト等 に取り組み、職場環境の改善に努めているた め、自己評価は「３」とする。						

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保

中期計画	年度計画																										
① 関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスの徹底を目的とした管理監督者研修などを実施することにより、チェック機能を強化し、不適切な事務処理や不祥事を未然に防止するとともに、市立病院として公平性・透明性を確保した適正な病院運営を行う。 ② 個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応する。	① 関係法令や内部規定の遵守等コンプライアンスを徹底するため、管理監督者を対象としたコンプライアンス研修を実施することにより、チェック機能を強化し、不適切な事務処理や不祥事を未然に防止する。 監事（弁護士、公認会計士）及び会計監査人による監査等の実施により、内部統制を適正に維持し、市立病院として適正な病院運営を行う。 ② 個人情報の保護及び情報公開に関しては、情報セキュリティ研修等を通じて職員の教育を徹底することにより、福岡市の関係条例等及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応する。また、カルテ等の診療情報に関しては、診療録開示委員会を開催して開示の可否を決定する。																										
【目標値】（単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="3">市立病院機構全体</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>コンプライアンス研修受講率</td><td>—</td><td>—</td><td>100</td></tr><tr><td>情報セキュリティ研修受講率</td><td>—</td><td>—</td><td>100</td></tr></table>	指標	市立病院機構全体			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	コンプライアンス研修受講率	—	—	100	情報セキュリティ研修受講率	—	—	100	【目標値】（単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">市立病院機構全体</th></tr><tr><th>令和2年度 実績値</th><th>令和4年度 目標値</th></tr><tr><td>コンプライアンス研修受講率</td><td>—</td><td>100</td></tr><tr><td>情報セキュリティ研修受講率</td><td>—</td><td>100</td></tr></table>	指標	市立病院機構全体		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値	コンプライアンス研修受講率	—	100	情報セキュリティ研修受講率	—	100
指標		市立病院機構全体																									
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																								
コンプライアンス研修受講率	—	—	100																								
情報セキュリティ研修受講率	—	—	100																								
指標	市立病院機構全体																										
	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値																									
コンプライアンス研修受講率	—	100																									
情報セキュリティ研修受講率	—	100																									

中期目標(内容)	医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、行動規範と倫理に従い、市立病院の運営を担う地方独立行政法人として、公平性・透明性を確保した病院運営を行うこと。 また、個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市個人情報保護条例（平成17年福岡市条例第103号）及び福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）に基づき、適切に対応すること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウ エ ィ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
① 管理監督者に対するWeb動画を活用したコンプライアンス研修等様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。 法人全体の業務の適正化及び効率化の観点から、監事（弁護士、公認会計士）による監査を受け、法令等に従い適正に実施されていると報告を受けた。 ② 個人情報保護及び情報公開に関しては、令和5年4月施行の改正個人情報保護法に対応できるように要綱の策定や個人情報ファイル簿の作成等を行い、ホームページに公表した。全職員に対する動画を活用した情報セキュリティ研修を開催して職員の教育を徹底するなど、福岡市の関係条例等及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応した。 また、カルテ等の開示請求に対しては、診療録（カルテ）開示委員会で開示の可否を決定した（福岡市立こども病院30件、福岡市民病院54件）。 【実績値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">市立病院機構全体</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>コンプライアンス 研修受講率</td><td>96.2</td><td>100</td></tr><tr><td>情報セキュリティ 研修受講率</td><td>92.2</td><td>99.9</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コンプライアンスや情報セキュリティについての研修を実施するとともに、個人情報の保護や情報公開についても適切に対応するなど、年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。	指標	市立病院機構全体		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	コンプライアンス 研修受講率	96.2	100	情報セキュリティ 研修受講率	92.2	99.9	1	3	3	○ 指標は目標値をほぼ達成しており、また、各種研修等による職員教育の実施や診療録開示委員会の開催等、個人情報の適切な管理や、法令遵守及び公平性・透明性の確保に努めるなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指標		市立病院機構全体													
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値													
コンプライアンス 研修受講率	96.2	100													
情報セキュリティ 研修受講率	92.2	99.9													

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項																												
	1 持続可能な経営基盤の確立 (1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化																												
中期計画		年度計画																											
(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化 市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供するため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進め、持続可能な経営基盤の確立を図る。 また、運営費負担金の趣旨を踏まえ、市立病院としての役割に応じた政策的医療を提供するとともに、自律的な運営に努め、経営改善に取り組む。 【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="3">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>108.2</td><td>103.0</td><td>98.2 (101.2※)</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>93.4</td><td>87.2</td><td>84.5 (87.0※)</td></tr></table> ※ P F I 契約に基づく節目の大規模修繕費用を除いて算出した場合		指標	福岡市立こども病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	経常収支比率	108.2	103.0	98.2 (101.2※)	医業収支比率	93.4	87.2	84.5 (87.0※)	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化 ア 福岡市立こども病院 毎週開催の執行部会議、毎月開催の運営会議において、新型コロナウイルス感染症等による医療環境の変化や病院の経営状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にした上で、収益の確保及び費用削減に取り組むとともに、月次決算の実施等経営に関する情報を迅速に把握し、経営分析や他病院との比較・分析を行うなど、効率的な病院経営を行う。 【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和2年度 実績値</th><th>令和4年度 目標値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>104.3</td><td>100.2</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>86.1</td><td>86.2</td></tr></table>		指標	福岡市立こども病院		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値	経常収支比率	104.3	100.2	医業収支比率	86.1	86.2
指標	福岡市立こども病院																												
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																										
経常収支比率	108.2	103.0	98.2 (101.2※)																										
医業収支比率	93.4	87.2	84.5 (87.0※)																										
指標	福岡市立こども病院																												
	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値																											
経常収支比率	104.3	100.2																											
医業収支比率	86.1	86.2																											

中期目標(項目)

第3 財務内容の改善に関する事項

1 持続可能な経営基盤の確立 (1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化

中期計画

(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化

市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供するため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進め、持続可能な経営基盤の確立を図る。

また、運営費負担金の趣旨を踏まえ、市立病院としての役割に応じた政策的医療を提供するとともに、自律的な運営に努め、経営改善に取り組む。

【目標値】

(単位：％)

指標	福岡市民病院		
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値
経常収支比率	95.8	106.2	100.1
医業収支比率	87.2	82.2	90.4

年度計画

(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化

イ 福岡市民病院

市立病院として求められる高度専門、救急医療を提供しながら、2年におよぶ新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少に対して経営の立て直しを図るため、病床稼働率の向上、救急患者の受入件数及び手術件数の増加を図るなど、収益の確保に努める。併せて、医療の質を担保しながら人員体制等の最適化を図るなど、収支改善に努める。

【目標値】

(単位：％)

指標	福岡市民病院	
	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
経常収支比率	109.5	98.4
医業収支比率	79.2	81.0

中期目標(内容)	市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供していくため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進めるなど、経営改善に取り組み、持続可能な経営基盤を確立すること。 また、地方独立行政法人法に基づく運営費負担金の趣旨を踏まえ、公立病院としての役割を果たすとともに、自律的な運営に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
イ 福岡市民病院 ○ コロナ対策における福岡市の中核的な役割を果たすとともに、高度専門医療、救急医療について、可能な限り通常診療の継続に取り組んだ。 令和4年度は、診療報酬改定による入院料に係る施設基準の変更に伴い、従来よりも厳しい基準となった要件を満たし、急性期病院としての機能を維持するために、高度な手術が必要な新規入院患者を確保しつつ、急性期を脱した患者の転院・退院調整等を促進した。 コロナ対応や平均在院日数の短縮等により、病床利用率が低下した一方で、高度な手術等に取り組んだことにより、1人1日当たり入院単価が向上したが、病床利用率低下の影響により医業収益は目標を若干、下回った。また、コロナ対応のための派遣職員雇用や外注検査委託等に係る経費が増加したため、医業収支比率は目標値を下回ったが、国や県の補助金により、必要な経費の補填等に努めた結果、経常収支比率は目標値を上回った。 【実績値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>116.1</td><td>114.7</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>79.4</td><td>77.6</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ コロナ対応や院内クラスター、診療報酬改定に伴う施設基準変更への対応など複数の要因により患者数等が減少したため、医業収支比率は目標を下回ったが、コロナ対応に係る国や県の補助金により必要な経費の補填等に努めた結果、経常収支比率は目標を上回ったことから、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	経常収支比率	116.1	114.7	医業収支比率	79.4	77.6	2	3	3	○ コロナの影響等により、医業収支比率は目標値を下回ったものの、コロナ対応に係る補助金収入により経常収支比率は目標値を上回っていることを勘案し、年度計画を順調に実施していると判断して、「評価3」とする。 ○ なお、医業収支比率については、コロナ対応終了後の経営も見据え、改善に向けた取組を進められたい。
指標		福岡市民病院													
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値													
経常収支比率	116.1	114.7													
医業収支比率	79.4	77.6													

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 1 持続可能な経営基盤の確立 (2) 投資財源の確保
中期計画	年度計画
(2) 投資財源の確保 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。	(2) 投資財源の確保 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計画を踏まえた自己財源の確保に努める。

中期目標(内容)	施設整備や高額医療機器の更新など、今後の投資計画を踏まえながら、自己財源の確保に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
○ 収支改善により生じた利益については、積立てを行うなど、投資計画を踏まえた今後の投資財源の確保を図り、計画的な施設整備、高額医療機器の更新や必要な医療機器の購入等、効果的な投資を行った。 【自己評価の判断理由】 ○ 継続したコロナ禍においても、収支改善は図られており、利益の積立て等による投資財源の確保や、施設整備等の効果的な投資が図られていることから、自己評価は「3」とする。	1	3	3	○ 収支改善による収益確保や、価格交渉の徹底による費用の抑制などにより、自己財源の確保が図られていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (1) 収益確保
中期計画	年度計画
(1) 収益確保 ① 診療体制の充実等による高度専門医療の提供に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上等に努め、収入の確保を図る。 ② 診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応して適切な施設基準の取得及び維持に取り組む。 また、診療報酬請求に係る精度を高めるようチェック体制を更に強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努めるなど、安定的な収益の確保に努める。	(1) 収益確保 ア 福岡市立こども病院 ① 循環器、周産期及び手術・集中治療センターを中心に、関連科との連携を密にし、高度専門医療、小児救急医療及び周産期医療の充実並びに病院設備の効率的な稼働を図る。 各種補助金を的確に活用することにより、収入の確保を図る。 ② 診療報酬改定に伴い、的確な情報収集を行い、適切な施設基準の取得及び維持管理に努める。 保険診療検討ワーキングチームを中心に、査定内容の分析・対策立案等を行うとともに、レセプト精度調査を実施し、診療報酬改定への対応が確実に行われているか第三者の視点から確認するなど、診療報酬請求業務の更なる精度向上に努める。 医事課職員やMSW(医療ソーシャルワーカー)による患者相談の充実等により、医療費の未収金発生防止に努めるとともに、回収困難事案については、法律事務所への業務委託によって確実な回収を図る。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的かつ確実な収益の確保に努めること。			
業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 毎週行われる執行部会議において、各センター長を含む病院幹部による患者数・手術件数等のモニタリング及び協議を行い、効率的な病棟運用の施策を講じた。 国や県のコロナ関連補助金を含む各種補助金の把握に努め、申請事務を適切に行うことにより、収益の確保を図った。 ② 4月の診療報酬改定に際し、的確な情報収集を行い、増収に繋がる施設基準の取得及び維持管理に努めた。 院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に、査定傾向の分析に基づいて、診療報酬請求プロセスの改善活動を病院全体で実施した結果、一次査定率を低い水準に抑えることができた（4年度0.04%、3年度0.04%）。 また、レセプト精度調査を実施し、診療録及び伝票の記載状況とレセプトの整合性を突合することにより、保険請求が正確に行われているか第三者の目による確認を行い、診療報酬請求業務の更なる精度向上に努めた。 医療費の未収金については、患者相談を適宜実施し、経済状況に合わせて分納や後日支払い等の働きかけを行うことで未然に発生を防止するとともに、マニュアルに沿った対応（内容証明郵便による催告など）を行い、それでもなお回収困難な事例については弁護士事務所に委託して、確実な回収を図った。	2	3	3	○ 外来単価の指標がわずかに目標値に達していないが、患者数は目標値を上回っている。具体的な取組としては、効率的な病棟の運用、各種補助金の的確な活用、増収に繋がる適切な施設基準の取得、診療報酬請求プロセスの改善や外部委託による未収金対策に努め、目標の未達を最小限にとどめていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】＊再掲				【目標値】＊再掲		
指標	福岡市立こども病院			指標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）＊	108,393	112,546	110,000	1人1日当たり入院 単価（円）＊	112,693	109,900
1人1日当たり 外来単価（円）	11,492	12,746	11,620	1人1日当たり外来 単価（円）	11,959	11,700
1日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率※ （％））＊	215.5 (90.2)	190.0 (79.5)	205.5 (86.0)	1日当たり入院患者 数（人）＊ （病床利用率※ （％））＊	187.8 (78.6)	200.0 (83.7)
新規入院患者数 （人）＊	7,428	6,180	6,883	新規入院患者数 （人）＊	6,195	7,200
平均在院日数 （日）	9.7	9.9	9.9	平均在院日数（日）	10.1	9.9
1日当たり 外来患者数（人）	389.5	356.1	371.4	1日当たり外来患者 数（人）	353.3	383.0
手術件数（件）＊	2,929	2,730	2,800	手術件数（件）＊	2,603	2,700
救急搬送件数 （件）＊	1,380	963	1,060	救急搬送件数（件）＊	980	1,200
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出				※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】＊再掲						
指標	福岡市立こども病院					
	令和３年度 実績値	令和４年度 実績値				
１人１日当たり入院 単価（円）＊	109,403	111,703				
１人１日当たり外来 単価（円）	11,434	11,500				
１日当たり入院患者 数（人）＊ （病床利用率※ （％））＊	198.9 (83.2)	200.7 (84.0)				
新規入院患者数(人) ＊	7,104	7,486				
平均在院日数（日）	9.2	8.8				
１日当たり外来患者 数（人）	385.5	397.0				
手術件数（件）＊	2,705	2,599				
救急搬送件数（件） ＊	1,269	1,923				
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出						
【自己評価の判断理由】 ○ コロナの影響により、手術件数については目標値を下回ったが、診療報酬改定に伴う施設基準の取得により、１人１日当たり入院単価が目標値を上回ったほか、保険診療検討ワーキングチームを中心とした診療報酬請求プロセスの改善活動に取り組み、一次査定率を低く抑えるなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「３」とする。						

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (1) 収益確保
中期計画	年度計画
(1) 収益確保 ① 診療体制の充実等による高度専門医療の提供に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上等に努め、収入の確保を図る。 ② 診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応して適切な施設基準の取得及び維持に取り組む。 また、診療報酬請求に係る精度を高めるようチェック体制を更に強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努めるなど、安定的な収益の確保に努める。	(1) 収益確保 イ 福岡市民病院 ① 重症患者の円滑な受入れと確保を目的とした「ICU・救急プロジェクトチーム」の活動を活性化させ、がん、心疾患、脳卒中、脊椎疾患等に係る難易度の高い手術症例の適切な確保に取り組む。 また、診療体制の充実等による高度専門医療への取組に関して、紹介元医療機関等に対する訪問活動を通じた情報発信の強化等、紹介患者の確保に努める。 内視鏡室の拡充や内視鏡AIシステムの導入等、消化器内視鏡治療体制を強化し、入院治療が必要な症例の確保を図る。 ② 診療報酬改定等を踏まえ、適切な施設基準の取得及び維持管理に努める。 また、診療報酬請求に係る精度を高めるようレセプトチェックシステムのカスタマイズを引き続き行い、正確なレセプト請求を行うことで、各診療科とのカンファレンスを行い、査定率の減に取り組むとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努める。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的かつ確実な収益の確保に努めること。			
業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 令和4年度診療報酬改定において入院料に係る施設基準が変更となったことに伴い、従来よりも厳しい基準となった要件を満たし、急性期病院としての機能を維持するために、高度な手術を必要とする新規入院患者を確保するとともに、疾患別の全国平均在院日数に準じた退院調整を促進するため、副院長をリーダーとする「病床管理会議」を設置し、毎朝、当日の入院患者の状況を把握し、退院困難事例に関する調整、検討を行った。また、効率的なベットコントロールを目的として病床管理システムを導入し、病床管理会議で検証するデータの可視化を行い、円滑な退院促進と、新入院の確保に取り組んだ結果、急性期病床に係る入院料を維持することができた。 新規入院患者の確保を目的として新規開業した病医院を訪問し(13件)、当院における診療内容等に関する情報提供を積極的に行った結果患者紹介に繋げることができた(19件)。 ② 令和4年度診療報酬改定等に伴い、必要となる要件を整備した上で、新たな施設基準の届出を行った(重症患者初期支援加算等)。 また、レセプトチェックシステムのカスタマイズを引き続き行うとともに、各診療科医師との連携を図り、正確なレセプト請求を行った。さらに、査定減対策のため、主要診療科のカンファレンスに医事課及び医療事務委託会社の職員が参加し、改善点等についての情報共有を行うなど、レセプト請求の精度向上に取り組んだ。 未収金については、未収金対応マニュアルを活用して、電話及び文書による督促や分納相談等により回収を行うとともに、回収困難案件については、法律事務所への業務委託を継続し、確実な回収を図った。	2	3	3	○ 患者数や病床利用率の指標が目標値に達していないが、一方で診療単価は目標値を上回っている。具体的な取組としては、病床管理システムの導入、情報発信強化による紹介患者の確保、外部委託による未収金回収等に着実に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】＊再掲				【目標値】＊再掲		
指標	福岡市民病院			指標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）＊	64,081	69,327	66,300	1人1日当たり入院 単価（円）＊	73,748	68,394
1人1日当たり 外来単価（円）	22,965	24,998	23,000	1人1日当たり外来 単価（円）	24,077	24,600
1日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率※ （％））＊	183.9 (90.2)	167.5 (82.1)	190.0 (93.1)	1日当たり入院患者 数（人）＊ （病床利用率※ （％））＊	160.0 (78.4)	174.1 (85.4)
新規入院患者数 （人）＊	4,525	4,053	4,769	新規入院患者数 （人）＊	4,026	4,432
平均在院日数 （日）	12.7	12.8	12.6	平均在院日数（日）	13.0	12.6
1日当たり 外来患者数（人）	219.7	194.6	220.0	1日当たり外来患者 数（人）	197.3	205.0
手術件数（件）＊	3,719	3,437	3,815	手術件数（件）＊	3,625	3,760
救急搬送件数 （件）＊	2,820	2,404	3,023	救急搬送件数（件）＊	2,411	2,810
※ 病床利用率については、総務省による公立病院 決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数× 100）に基づき算出				※ 病床利用率については、総務省による公立病 院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床 数×100）に基づき算出		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】＊再掲						
指標	福岡市民病院					
	令和３年度 実績値	令和４年度 実績値				
１人１日当たり 入院単価（円）＊	78,153	79,493				
１人１日当たり 外来単価（円）	24,597	24,871				
１日当たり入院患者 数（人）＊ （病床利用率※ （％））＊	154.0 (75.5)	144.8 (71.0)				
新規入院患者数(人) ＊	4,048	4,044				
平均在院日数（日）	12.5	12.0				
１日当たり外来患者 数（人）	205.9	212.0				
手術件数（件）＊	3,877	3,580				
救急搬送件数（件） ＊	2,565	3,037				
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出						
【自己評価の判断理由】 ○ 目標値については、コロナ対応の継続や院内クラスター発生、診療報酬改定に伴う施設基準変更への対応など複数の要因により、１日当たり入院患者数、新規入院患者数、手術件数が目標を下回ったものの、急性期病床の入院料を維持するとともに、高度な手術や新規入院患者を確保するための取組を行い、収益確保に努めた。その結果、１人１日当たり入院単価は目標値を上回り、診療報酬上の特例措置による加算分を除いても高水準となるなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「３」とする。						

中期目標（項目）	第3 財務内容の改善に関する事項
	2 収支改善 （2）費用削減

中期計画	年度計画																																																						
(2) 費用削減 ① 医療の質や医療安全の確保、患者へのサービス及び職員の労働環境等に十分配慮したうえで、職員の適正配置を行い、給与費比率の適正化に努める。 ② 診療材料や医薬品等の調達に関し、SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントと共同して、分析及びそれに基づく価格交渉の徹底、契約手法や委託業務内容の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等を行い、費用の削減を図る。 ③ 両病院ともに、適切に施設・設備のアセットマネジメントを推進する。	(2) 費用削減 ア 福岡市立こども病院 ① ICT（情報通信技術）の活用による業務の効率化を推進し、人員配置及び給与比率の適正化に努める。 ② SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントと共同して、他の医療機関とのベンチマーク分析及びそれに基づく価格交渉の徹底や同種同効品への切替え等を行い、診療材料費の更なる削減に取り組むとともに、委託費等の経費全般においても、契約手法や委託業務内容の見直しによる費用削減を図る。 ③ PFI（Private Finance Initiative）事業者から予防保全を前提に提案・策定された修繕更新計画に基づき、適切に管理を行い、建物・設備の長寿命化及び維持・修繕費用の縮減を図る。																																																						
【目標値】（単位：％）	【目標値】（単位：％）																																																						
<table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="3">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>給与費対医業 収益比率</td><td>56.2</td><td>63.1</td><td>61.2</td></tr><tr><td>材料費対医業 収益比率</td><td>17.5</td><td>17.7</td><td>20.2</td></tr><tr><td>うち薬品費 対医業収益比率</td><td>5.5</td><td>5.4</td><td>6.8</td></tr><tr><td>うち診療材料費 対医業収益比率</td><td>11.6</td><td>11.9</td><td>13.1</td></tr><tr><td>委託費対医業 収益比率</td><td>9.3</td><td>11.1</td><td>12.0</td></tr><tr><td>ジェネリック医 薬品導入率 ※</td><td>89.9</td><td>85.0</td><td>85.0</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	給与費対医業 収益比率	56.2	63.1	61.2	材料費対医業 収益比率	17.5	17.7	20.2	うち薬品費 対医業収益比率	5.5	5.4	6.8	うち診療材料費 対医業収益比率	11.6	11.9	13.1	委託費対医業 収益比率	9.3	11.1	12.0	ジェネリック医 薬品導入率 ※	89.9	85.0	85.0	<table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和2年度 実績値</th><th>令和4年度 目標値</th></tr><tr><td>給与費対医業収益比 率</td><td>64.5</td><td>62.8</td></tr><tr><td>材料費対医業収益比 率</td><td>18.1</td><td>18.8</td></tr><tr><td>うち薬品費 対医業収益比率</td><td>5.6</td><td>5.4</td></tr><tr><td>うち診療材料費 対医業収益比率</td><td>12.2</td><td>13.2</td></tr><tr><td>委託費対医業収益比 率</td><td>10.7</td><td>11.0</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬品 導入率 ※</td><td>85.8</td><td>85.0</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値	給与費対医業収益比 率	64.5	62.8	材料費対医業収益比 率	18.1	18.8	うち薬品費 対医業収益比率	5.6	5.4	うち診療材料費 対医業収益比率	12.2	13.2	委託費対医業収益比 率	10.7	11.0	ジェネリック医薬品 導入率 ※	85.8	85.0
指標		福岡市立こども病院																																																					
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																																																				
給与費対医業 収益比率	56.2	63.1	61.2																																																				
材料費対医業 収益比率	17.5	17.7	20.2																																																				
うち薬品費 対医業収益比率	5.5	5.4	6.8																																																				
うち診療材料費 対医業収益比率	11.6	11.9	13.1																																																				
委託費対医業 収益比率	9.3	11.1	12.0																																																				
ジェネリック医 薬品導入率 ※	89.9	85.0	85.0																																																				
指標	福岡市立こども病院																																																						
	令和2年度 実績値	令和4年度 目標値																																																					
給与費対医業収益比 率	64.5	62.8																																																					
材料費対医業収益比 率	18.1	18.8																																																					
うち薬品費 対医業収益比率	5.6	5.4																																																					
うち診療材料費 対医業収益比率	12.2	13.2																																																					
委託費対医業収益比 率	10.7	11.0																																																					
ジェネリック医薬品 導入率 ※	85.8	85.0																																																					
※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。	※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。																																																						

中期目標（内容）	地方独立行政法人の会計制度に基づいた効果的かつ効率的な事業運営に努めるとともに、効果的な費用の削減に努めること。 また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化などのアセットマネジメントを推進すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																								
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																							
ア 福岡市立こども病院 ① 11月に勤務評定に係る人事評価システムを導入・運用を開始し、2月に勤怠管理システム（令和5年10月稼働予定）の選定を行うなど、ICT（情報通信技術）を活用した事務業務の効率化を推進した。 ② 診療材料については、積極的にSPD（医療材料物流管理）受託業者と連携・協力し、安価な同種同効品への切替えや更なる価格交渉を徹底した結果、診療材料費を約1,060万円削減した（削減額は、SPD（医療材料物流管理）委託契約前年度（令和元年度）の購入単価を基準として算出）。また、経費全般においても、価格交渉の徹底、契約手法の見直しに努め、削減を図った。 ③ PFI（Private Finance Initiative）事業者から予防保全を前提に提案・策定された修繕更新計画に基づき、適切に管理を行い、建物・設備の長寿命化及び維持・修繕費用の縮減を図った。 【実績値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和3年度 実績値</th><th>令和4年度 実績値</th></tr><tr><td>給与費対医業収益比率</td><td>62.2</td><td>60.3</td></tr><tr><td>材料費対医業収益比率</td><td>19.0</td><td>19.7</td></tr><tr><td>うち薬品費 対医業収益比率</td><td>5.5</td><td>6.4</td></tr><tr><td>うち診療材料費 対医業収益比率</td><td>13.2</td><td>13.0</td></tr><tr><td>委託費対医業収益比率</td><td>10.4</td><td>10.3</td></tr><tr><td>ジェネリック医薬品 導入率 ※</td><td>86.3</td><td>87.3</td></tr></table> ※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。	指標	福岡市立こども病院		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	給与費対医業収益比率	62.2	60.3	材料費対医業収益比率	19.0	19.7	うち薬品費 対医業収益比率	5.5	6.4	うち診療材料費 対医業収益比率	13.2	13.0	委託費対医業収益比率	10.4	10.3	ジェネリック医薬品 導入率 ※	86.3	87.3	2	3	3	○ 材料費及び薬品費対医業収益比率の指標がわずかに目標値を下回っているが、ICT（情報通信技術）を活用した業務の効率化、SPD（医療材料物流管理）事業者との連携による診療材料費の節減、施設・設備の長寿命化及び維持修繕費用の削減等に着実に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指標		福岡市立こども病院																									
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値																									
給与費対医業収益比率	62.2	60.3																									
材料費対医業収益比率	19.0	19.7																									
うち薬品費 対医業収益比率	5.5	6.4																									
うち診療材料費 対医業収益比率	13.2	13.0																									
委託費対医業収益比率	10.4	10.3																									
ジェネリック医薬品 導入率 ※	86.3	87.3																									

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 高額医薬品の使用量の増により、薬品費対医業収益比率が目標値を下回ったが、ＩＣＴ（情報通信技術）を活用した事務業務の効率化を推進するとともに、ＳＰＤ（医療材料物流管理）受託業者と連携し費用を削減するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「３」とする。				

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (2) 費用削減
中期計画	年度計画
(2) 費用削減 ① 医療の質や医療安全の確保、患者へのサービス及び職員の労働環境等に十分配慮したうえで、職員の適正配置を行い、給与費比率の適正化に努める。 ② 診療材料や医薬品等の調達に関し、SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントと共同して、分析及びそれに基づく価格交渉の徹底、契約手法や委託業務内容の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等を行い、費用の削減を図る。 ③ 両病院ともに、適切に施設・設備のアセットマネジメントを推進する。	(2) 費用削減 イ 福岡市民病院 ① ICT（情報通信技術）の活用等による業務の効率化を図るとともに、職員の適正配置を行い給与比率の適正化に努める。 ② SPD（医療材料物流管理）事業者による診材費削減結果等の報告会を実施し、詳細な現状把握や他病院とのベンチマーク平均を使った比較分析等を行うとともに、価格交渉に当たっては、多職種によるCOP（Cost Optimization）チームを中心に、新規に契約したSPD受託業者と積極的に連携し、医業収益に対する診療材料比率の縮減等に取り組む。また、高額な医療機器の保守に関しても、状況に応じて外部コンサルタントの活用も視野に入れるなど、委託費用の更なる縮減に努める。 内視鏡装置の更新にあたって、新たに内視鏡症例単価払いシステム（VPP:Value Per Procedure）を導入し、購入費用や保守費用等の縮減を図る。 ③ 中長期修繕計画に基づき、維持・修繕費用の削減を図る。

中期目標(内容)	地方独立行政法人の会計制度に基づいた効果的かつ効率的な事業運営に努めるとともに、効果的な費用の削減に努めること。 また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化などのアセットマネジメントを推進すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 1月にRPA(Robotics Process Automation)を導入し、医事システムのデータ取り込みや病床管理システム用のデータ作成、厚生労働省「医療機関等情報支援システム(G-MIS)」に入力するデータ集計等の自動化に取り組み、それまで職員がデータ集計等の日次作業に従事した工数に換算して、月約41時間／人相当の作業効率化となった。 ② SPD(医療材料物流管理)事業者と連携し、他病院とのベンチマーク分析をもとに、COP(Cost Optimization)チームを中心として診療材料に係る価格交渉を実施し、約350万円の価格削減となった。併せて同種同効品への切替えも進め、約305万円の削減となり、計655万円の削減効果となった。 内視鏡装置の保守費用について、新たに内視鏡症例単価払いシステム(VPP:Value Per Procedure)を導入し、保守費用を含め、年間約20万円の費用削減となった。 また、外部コンサルタントを活用した委託費用に係る価格交渉に取り組み、電子カルテ保守費用に関して、仕様の見直しによるものも含めて、年間約60万円の費用削減となった。 ③ 本館各階34か所のトイレ等水回り改修工事を実施したほか、経年劣化による配管からの水漏れに係る高額医療機器等への被害予防のため、緊急性の高い2階機械室の防水工事を実施し施設の長寿命化に努めた。	2	3	3	○ コロナの影響による医業収益の減や薬品費の増により、目標値を全ての項目で下回ることとなったが、令和4年度決算における医業費用の額については令和3年度より減少するなど費用削減は進められている。また、RPA(Robotics Process Automation)を活用した業務の効率化、SPD(医療材料物流管理)事業者との連携等による診療材料費の節減、施設・設備の長寿命化等に着実に取り組んでおり、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】 (単位：%)				【目標値】 (単位：%)		
指標	福岡市民病院			指標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和2年度 実績値	令和4年度 目標値
給与費対医業収益比率	62.9	67.2	56.6	給与費対医業収益比率	70.5	65.6
材料費対医業収益比率	27.0	26.3	28.8	材料費対医業収益比率	27.6	28.6
うち薬品費 対医業収益比率	8.4	8.0	8.8	うち薬品費 対医業収益比率	7.6	7.7
うち診療材料費 対医業収益比率	18.4	18.1	19.9	うち診療材料費 対医業収益比率	19.7	20.5
委託費対医業収益比率	7.6	7.9	8.5	委託費対医業収益比率	8.0	8.0
ジェネリック医薬品導入率 ※	88.7	88.7	88.7	ジェネリック医薬品導入率 ※	89.1	88.7
※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。				※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】 (単位：％)						
指標	福岡市民病院					
	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値				
給与費対医業収益比率	67.4	66.7				
材料費対医業収益比率	29.3	31.0				
うち薬品費 対医業収益比率	8.0	9.9				
うち診療材料費 対医業収益比率	20.9	20.9				
委託費対医業収益比率	8.3	8.6				
ジェネリック医薬品 導入率 ※	88.3	86.7				
※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。						
【自己評価の判断理由】						
○ 目標値については、コロナの影響による病床確保の継続や院内クラスターの発生等が要因で、医業収益が目標を下回った。また、コロナ治療薬（ベクルリー等）の使用等により薬品費が増加した。加えて、ジェネリック医薬品については、後発薬メーカーの不祥事の影響等により供給が不安定な状況が続き、先発薬に切り替えた薬品もあった。						
コロナの影響等複数の要因が重なり、全ての指標において目標値を下回ったが、給与費対医業収益比率は前年度より改善しており、価格交渉等において可能な限りの費用を削減するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。						

中期目標（項目）	第4 その他業務運営に関する重要事項 1 福岡市立こども病院における医療機能の充実
中期計画	年度計画
中核的な小児総合医療施設としての役割を果たすため、医療環境の変化等を踏まえ、高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、治験や臨床データ解析等の臨床研究、国際的な視野に立った職員の人材育成等に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展に貢献する。 また、新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用や更なる確保を目指した取組を進める。	○ 循環器集中治療科を新設し、重症集中治療系医療体制の充実を図る。（再掲） ○ 新興感染症等の感染拡大時における小児感染症医療の提供体制を確保するため、PPE（個人用防護具）の備蓄及び保管体制の強化等、「平時」における有事に備えた取組を行う。（再掲） ○ 臨床研究や治験（検証的臨床試験）に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献する。 ○ 国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、研修活動等を行う。 ○ 高度医療を行う小児総合医療施設として患者の治療・救命に全力を尽くすとともに、患者・家族の選択肢の一つとして、臓器提供の申出がなされた際は円滑に対応できるよう、院内体制の維持するため必要な取組を行う。 ○ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用等に係る取組を進める。 ○ 個人や企業からの支援確保に向け積極的な情報発信や働きかけを行うことにより、研究基金・療養環境整備基金・患児家族滞在施設整備基金の造成を図る。

中期目標(内容)	小児医療、周産期医療を取り巻く状況や医療環境の変化等を踏まえ、福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう、中核的な小児総合医療施設としての医療機能の更なる充実を図ること。 また、新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用や更なる確保を目指した取組を進めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
○ 4月に循環器集中治療科を新設し、循環器科及び集中治療科の医師が心臓血管外科医と連携して、心臓血管外科対象症例を中心に術後管理を行うなど、重症集中治療系医療体制の充実を図り、より質の高い医療の提供を行った。(再掲) ○ 国や県と備蓄在庫の情報を共有し、N95マスク等のPPE(個人用防護具)や消毒液等の必要在庫の確保に努めるとともに、感染症拡大時の陰圧室の不足に備え、12月に簡易陰圧設備1台を導入するなど、コロナ及び新興感染症等の感染拡大時における小児感染症医療の提供体制の確保に努めた。(再掲) ○ 厚生労働省DPC(診断群分類)公開データにおいて、川崎病(151例)及び先天性心疾患に係る手術症例(178例)について、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が7年連続で全国1位となった。 臨床研究については、科学研究費助成事業(文部科学省)で研究代表として採択された課題等に積極的に取り組み、15件(うち研究代表4件)の研究に参加した。 治験業務については、アクティブプロトコル32件(うち新規11件)を実施し、新たに11人の患者へ治験を開始した。 ○ 国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、医療英語・中国語・フランス語研修を開催(4年度延べ31回、3年度延べ15回)した。 ○ 臓器提供の申出がなされた際に円滑に対応できるよう、外部講師による講演会を1回開催するとともに、脳死判定及び臓器提供のシミュレーションを各1回実施した。 ○ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用等に係る取組を進めた。 ○ 令和3年度に引き続き、コロナ禍のため、積極的な企業訪問は中止とした。なお、令和4年4月に開業した市内大型商業施設に、支援自販機(寄付型自動販売機)の設置に係る働きかけを行っており、その結果支援自販機1台を設置できた。	2	4	4	○ 川崎病や先天性心疾患に係る手術症例を始めとする高度小児専門医療に加え、前述のとおり、小児救急医療、周産期医療等に着実に取り組んでいる。 ○ 循環器集中治療科の新設による重症集中治療系医療体制の拡充や、臨床研究や治験への積極的な取組など、小児総合医療施設として求められる役割を果たすべく医療機能の充実を図っており、またコロナの感染拡大時における小児感染症医療の提供体制の確保に努めたことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 循環器集中治療科を新設し、重症集中治療系医療体制の充実を図るとともに、臨床研究や治験業務に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献した。 また、川崎病の症例数や先天性心疾患に係る手術症例数が成人を含むDPC病院の中で7年連続全国1位となるなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。				

中期目標（項目）	第4 その他業務運営に関する重要事項 2 福岡市民病院における経営改善の推進
中期計画	年度計画
① 将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、福岡県保健医療計画及び地域医療構想に基づき、公立病院に求められる高度専門医療、救急医療を提供するとともに、福岡市の医療施策として必要な感染症医療等の診療機能の充実に取り組む。 その一方で、経営の効率化に積極的に取り組み、現在の医療資源を最大限有効活用して、収支の改善に努める。 ② 収支の状況を踏まえながら、築30年を超えた既存の施設・設備の計画的な維持管理に取り組む。	① 令和3年度に実施された福岡市病院事業運営審議会における答申「福岡市民病院における感染症医療について」を受け、当院に求められる新たな役割（地域医療への貢献）について早急に着手するため、「（仮称）感染対策情報発信センター（I C I C : Infection Control Information Center）」を設置するなど、新型コロナウイルス感染症対策を始めとする新興感染症への備えを強化するとともに、公立病院に求められる高度専門医療、救急医療の充実に取り組む。 また、将来的な福岡市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、現在の医療資源を最大限有効活用して経営の効率化に積極的に取り組む。 ② 中長期修繕計画に基づき、施設・設備の長寿命化や投資の平準化を図るとともに、将来的な福岡市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえ、当該計画を適宜見直し、施設・設備の適切な維持管理に取り組む。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
確保に努めた。 また、COP (Cost Optimization) チームを中心とした診療材料費の縮減等、費用削減にも取り組んだものの、医業収支比率は目標値を下回ったが、国や県のコロナ関連補助金により、コロナ対応で必要となる経費等の補填に活用し、経常収支は黒字となった。 令和5年5月からのコロナの5類移行に向けて、院内に「5類対応ワーキングチーム」を設置し、院内の感染対策に係る運用の見直し等の準備を進めるとともに、ポストコロナを見据え、新規入院患者の確保や病床利用率の向上等に係る対策を検討し、安定的な医業収益の確保と、補助金による損失補填に依存しない収支改善に向けた取組を開始した。 ② 中長期修繕計画に基づき、緊急性の高い2階機械室の防水工事や、療養環境改善のためのトイレ等水回り改修工事を実施し、施設の適正な維持管理に取り組むとともに、高度専門医療の提供に必要な医療機器の購入や、次年度以降の購入・更新計画の作成等、必要な投資を行った。 【自己評価の判断理由】 ○ コロナの影響により、引き続き重点医療機関として病床確保を継続する中、院内クラスターが複数回発生したほか、診療報酬改定への対応として平均在院日数の短縮に取り組んだ結果、入院患者数や手術件数が減少した。一方で、高度専門医療の維持に努め、高度な手術や施設基準の維持に取り組んだ結果、入院単価は向上し、急性期一般入院料を維持することができた。 医業収支比率は目標を下回ったものの、国や県の補助金により、コロナ対応で増加した経費を補填するなど、経常収支比率は目標を上回り、黒字となった。 コロナ対応では福岡市の中核的な役割を果たしながら、複数の制約下においても高度専門医療の提供に積極的に取り組み、一定程度の医業収益を確保したことから、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。				

第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（令和4年度）の執行状況

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
収入			
営業収益	17,405	19,335	1,929
医業収益	14,950	14,974	23
運営費負担金収益	1,754	1,754	0
補助金等収益	624	2,504	1,880
寄附金収益	6	13	8
受託収入	71	89	18
営業外収益	181	196	15
運営費負担金収益	67	67	—
補助金等収益	1	4	4
その他営業外収益	113	124	11
資本収入	200	241	41
長期借入金	—	—	—
運営費負担金	178	178	△ 0
寄附金	—	—	—
補助金等	22	63	41
その他の収入	—	—	—
計	17,786	19,771	1,985
支出			
営業費用	16,282	16,303	21
医業費用	16,095	16,141	46
給与費	9,497	9,308	△ 189
材料費	3,695	3,920	225
経費	2,802	2,818	16
研究研修費	100	94	△ 5
一般管理費	187	162	△ 25
給与費	127	111	△ 16
経費	60	51	△ 9
営業外費用	160	190	30
資本支出	1,940	1,614	△ 326
建設改良費	1,277	951	△ 326
償還金	663	663	△ 0
その他の支出	10	181	172
計	18,392	18,289	△ 103

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

2 収支計画（令和4年度）の執行状況

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
収益の部	17,808	19,756	1,948
営業収益	17,628	19,564	1,937
医業収益	14,950	14,959	8
運営費負担金収益	1,754	1,754	0
補助金等収益	624	2,504	1,880
寄附金収益	6	13	8
資産見返負債戻入	222	253	30
受託収入	71	81	10
営業外収益	181	185	5
運営費負担金収益	67	67	—
その他営業外収益	113	118	5
臨時利益	—	7	7
費用の部	17,907	18,142	235
営業費用	17,737	17,771	34
医業費用	17,473	16,927	△ 546
給与費	9,535	9,370	△ 164
材料費	3,695	3,575	△ 120
経費	2,807	2,581	△ 226
減価償却費	1,335	1,311	△ 23
資産減耗費	2	2	0
研究研修費	100	88	△ 12
一般管理費	192	160	△ 32
その他営業費用	71	684	613
営業外費用	160	190	30
臨時損失	10	181	172
純利益	△ 98	1,614	1,713
目的積立金取崩額	—	—	—
総利益	△ 98	1,614	1,713

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

3 資金計画（令和4年度）の執行状況

（単位：百万円）

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
資金収入	23,304	24,890	1,586
業務活動による収入	17,586	19,359	1,773
診療業務による収入	14,950	14,836	△ 114
運営費負担金による収入	1,822	1,822	0
その他の業務活動による収入	814	2,702	1,888
投資活動による収入	200	1,473	1,272
運営費負担金による収入	178	178	0
その他の投資活動による収入	22	1,294	1,272
財務活動による収入	—	—	—
長期借入れによる収入	—	—	—
その他の財務活動による収入	—	—	—
前事業年度からの繰越金	5,517	4,058	△ 1,459
資金支出	23,304	24,890	1,586
業務活動による支出	16,451	16,492	41
給与費支出	9,624	9,401	△ 223
材料費支出	3,695	3,589	△ 106
その他の業務活動による支出	3,131	3,502	371
投資活動による支出	1,151	1,874	723
有形固定資産取得による支出	1,151	643	△ 507
無形固定資産取得による支出	—	7	7
その他の投資活動による支出	—	1,224	1,224
財務活動による支出	790	783	△ 7
長期借入金の返済による支出	426	426	—
移行前地方債償還債務の償還による支出	237	237	△ 0
その他の財務活動による支出	127	120	△ 7
翌事業年度への繰越金	4,912	5,741	829

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

第6 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実 績
1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応	1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応	該当なし

第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実 績
重要な財産を譲渡する計画 土地（福岡市中央区唐人町二丁目133番2 面積16,925.85平方メートル）を譲渡する。	なし	該当なし

第8 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実 績
決算において剰余金が生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。	決算において剰余金が生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。	令和4年度は、決算において剰余を生じたので、令和5年度以降における病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる予定である。

第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実 績																		
1 施設及び設備に関する計画 (令和3年度から令和6年度まで) (単位:百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療 機器等整備</td><td>4,762</td><td>積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設、医療 機器等整備	4,762	積立金等	1 施設及び設備に関する計画 (令和4年度) (単位:百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療 機器等整備</td><td>1,151</td><td>前中期目標期間 繰越積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設、医療 機器等整備	1,151	前中期目標期間 繰越積立金等	1 施設及び設備に関する計画 (令和4年度) (単位:百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>決定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療 機器等整備</td><td>831</td><td>前中期目標期間 繰越積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	決定額	財源	病院施設、医療 機器等整備	831	前中期目標期間 繰越積立金等
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設、医療 機器等整備	4,762	積立金等																		
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設、医療 機器等整備	1,151	前中期目標期間 繰越積立金等																		
施設及び設備 の内容	決定額	財源																		
病院施設、医療 機器等整備	831	前中期目標期間 繰越積立金等																		
2 人事に関する計画 人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 医師及び管理職を対象とした人事評価制度については、引き続き評価結果を業績手当へ反映するなど、職員のモチベーションの維持・向上を図った。 また、管理監督者に対してのWeb動画を活用したコンプライアンス研修や、全職員対象の情報セキュリティ研修等を実施したほか、中堅職員1人を外部研修へ派遣した。 各病院においてもWeb等を活用した院内研修の実施や外部研修の受講推進等研修体制の充実に努めた。 人材育成や組織の活性化を図るため、適材適所の人事配置に努めたほか、有期職員を福岡市立こども病院に145人、福岡市民病院に112人及び運営本部に2人配置するなど、効果的・効率的な組織運営を推進した。 ※有期職員の人数は令和4年5月1日現在																		

地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針

〔 平成30年 6 月22日決定 〕

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第 28 条第 1 項各号の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が実施する地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の業務実績に関する評価（以下「評価」という。）については、以下の方針に基づき行うものとする。

1 基本方針

- (1) 評価は、法人が中期目標を達成するために、業務運営の改善及び効率化が進められること及び法人の質的向上に資することを目的として行うものとする。
- (2) 評価は、年度計画及び中期計画の実施状況を確認及び分析し、法人の業務運営等について総合的に判断して行うものとする。
- (3) 年度計画及び中期計画を実現するために、法人として特色ある取組や様々な工夫を行った場合は積極的に評価することとし、単に実績数値にとらわれないものとする。
- (4) 評価方法については、法人を取り巻く環境変化などを踏まえ、柔軟に対応するとともに、必要に応じて見直しを行うものとする。

2 評価方法

(1) 法人からの報告書の提出

法人は、各事業年度の終了後 3 月以内に、法第 28 条第 2 項及び地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則第 8 条に定める報告書（以下「業務実績報告書」という。）を市長に提出するものとする。

(2) 評価の実施

市長は、提出された業務実績報告書をもとに、法人からの意見聴取等を踏まえて業務の実施状況を確認及び分析し、別途、実施要領で定める項目を評価単位とする「項目別評価」と、それを踏まえた「全体評価」により評価を行うものとする。

評価は、毎事業年度の終了後に実施する「年度評価」、中期目標の期間の最後の事業年度の直前の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間見込評価」及び中期目標の期間の最後の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間評価」とする。

① 年度評価

当該事業年度における業務の実績について「項目別評価（小項目評価及び大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

② 中期目標期間見込評価

中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

③ 中期目標期間評価

中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

3 評価結果等の活用

- (1) 法人は、法第 28 条第 6 項に基づく業務運営の改善等の措置を受けた場合、自主的に必要な措置をとるとともに、法第 29 条に基づき、評価の結果を、中期計画及び年度計画並びに業務運営の改善に適切に反映させる。
- (2) 次期中期目標の策定、次期中期計画の認可及び法人の業務の継続又は組織の存続の必要性等に関する検討に関して、評価委員会が意見を述べる際には、中期目標の期間の各事業年度の評価結果を踏まえるものとする。

4 適用時期

この方針は、平成 30 年度に実施する業務実績評価から適用する。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領

平成30年6月22日決定
令和4年4月22日改正
令和5年1月31日改正

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第28条の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の各事業年度における業務の実績に関する評価を実施するに当たっては、「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針（平成30年6月22日決定）」に基づき、以下の要領により実施する。

1 評価区分

(1) 全体評価

当該事業年度における業務の実績全体について評価を行う。

(2) 項目別評価

① 大項目評価

法第25条第2項第2号から第5号の各号に基づき、中期目標に掲げる第1から第4の事項について評価を行う。

② 小項目評価

大項目評価で定める評価区分に基づき、別表で定める事項について評価を行う。

2 評価結果の公表

評価の結果は、評価区分ごとに評価結果報告書（別紙1のとおり）にとりまとめ公表する。

3 評価方法

(1) 法人の自己評価

法人は、中期計画及び年度計画の実施状況等が明らかになるよう、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由等を記載した業務実績等報告書（別紙2のとおり）を作成する。法人は、各小項目に市立病院としての役割や年度計画の重要度合いを考慮して、ウエイトを設定するものとする。

なお、業務の実績には、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、特記事項と

して、特色ある取組、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院の自己点検に基づき、法人として行うものとする。

評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価４・・・年度計画を上回って実施している。

評価３・・・年度計画を順調に実施している。

評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 項目別評価

① 小項目評価

市長は、業務実績報告書記載の法人の自己評価を踏まえ、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。その際、単に目標値及び前年度数値と当該年度の実績値の比較だけでなく、中期計画を達成するために効果的な取組が行われているかどうかなど、総合的に判断するとともに評価の判断理由等を記載する。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価４・・・年度計画を上回って実施している。

評価３・・・年度計画を順調に実施している。

評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

② 大項目評価

市長は、小項目評価の結果を踏まえ、大項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。評価に当たっては、小項目評価の１～５をそれぞれ１点～５点とし、ウェイト換算後の合計を評価点、すべての小項目評価が３の場合の合計を標準点とし、標準点に対する評価点の割合（％）により評価を行うものとする。

また、特筆すべき小項目評価やその他考慮すべき事項がある場合、判断理由を記載する。

評価Ｓ：中期計画の実現に向けて、特筆すべき進捗状況にある

(市長が特に認める場合)

評価A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる

(評価点が標準点の 120%以上)

評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる

(評価点が標準点の 100%以上 120%未満)

評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている

(評価点が標準点の 100%未満)

評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある

(市長が特に認める場合)

(3) 全体評価

市長は、項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について、記述式による評価を行う。

全体評価においては、病院改革の取組（法人運営における業務運営の改善・効率化、財務内容の改善など）を積極的に評価するものとする。

その評価に当たり、項目別評価の結果及びその判断理由とともに、主な取組や特色ある取組及び特に優れている点など特筆すべき取組について記載するものとする。

また、評価に際し改善すべき事項がある場合は記載する。

(別表) 項目別評価

大項目	小項目	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践
		(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
		(3) 災害・感染症等への適切な対応
	2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上
		(2) 情報発信
	3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修
		(2) 信頼される医療の実践
第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	
	2 事務部門の機能強化	
	3 働きがいのある職場環境づくり	
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保	
第3 財務内容の改善に関する事項	1 持続可能な経営基盤の確立	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化
		(2) 投資財源の確保
	2 収支改善	(1) 収益確保
		(2) 費用削減
第4 その他業務運営に関する重要事項	1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	
	2 福岡市民病院における経営改善の推進	